かごしま遺跡フォーラム 2018

大隅半島で初めての開催！

大隅半島の考古学

道路の下のものがたり

資料集

志武士ししまるとトン助くん
【志布志市観光特産品協会の公式キャラクター】

平成 30 年 10 月 13 日
志布志市文化会館ホール

主催：鹿児島県立埋蔵文化財センター

共催：公益財団法人 鹿児島県文化振興財団 埋蔵文化財調査センター
志布志市教育委員会

●お問い合わせ 鹿児島県立埋蔵文化財センター 霧島市国分上野原縄文の森2－1
TEL：0995-48-5811 FAX：0995-48-5821 E-mail：maibun@jomon-no-mori.jp

上のコードから、センターホームページにジャンプします。

日程及び内容

12：30　　開場

12：30 ～ 13：00　受付

13：00 ～ 13：10　開会行事

主催者あいさつ　県立埋蔵文化財センター　所長　堂込　秀人

来　賓あいさつ　志布志市教育委員会　和田　幸一郎　教育長

13：10 ～ 14：00　講演

「近年の発掘調査からわかってきた大隅半島の歴史」

県立埋蔵文化財センター　所長　堂込　秀人

14：00 ～ 15：50　各遺跡の調査成果

（１）　天神段遺跡（曽於郡大崎町）

（公財）埋蔵文化財調査センター

文化財専門員　立神　倫史

（２）　川久保遺跡（鹿屋市串良町）

県立埋蔵文化財センター

文化財主事　　湯場﨑　辰巳

（３）　小牧遺跡（鹿屋市串良町）

（公財）埋蔵文化財調査センター

文化財専門員　横手　浩二郎

（４）　永吉天神段遺跡（曽於郡大崎町）

県立埋蔵文化財センター

文化財主事　　隈元　俊一

（５）　次五遺跡（志布志市有明町）

志布志市教育委員会生涯学習課文化財管理室

主任主査　　相美　伊久雄

15：50 ～ 16：05　質疑応答

16：05 ～ 16：10　閉会行事

あいさつ　（公財）埋蔵文化財調査センター

センター長　前迫　亮一

ごあいさつ

本日は，「かごしま遺跡フォーラム２０１８」にようこそお越しくださいました。このフォーラムは，平成 24 年度に行われました県立埋蔵文化財センターの「設立 20 周年記念フォーラム」を契機として継続的に実施している催しで，発掘調査した遺跡の歴史的意義や価値などについて，最新の情報を県民の皆様に紹介することを目的としています。

これまで霧島市国分や鹿児島市内で開催してきましたが，今回初めて大隅半島で「大隅半島の考古学　道路の下のものがたり」と題して開催いたします。大隅半島では，東九州自動車道や都城志布志道路建設などに伴って多くの遺跡の発掘調査が進んでおります。地域の皆様方には，多大な御協力をいただいており，感謝申し上げます。

発掘調査によって，旧石器時代から近世まで，各時代における新たな発見や調査成果がありました。これらの発掘調査成果は，折に触れて現地説明会や報道発表，さらに「埋文だより」や上野原縄文の森での企画展などで紹介してきたところです。

特に注目されたのは，永吉天神段遺跡の弥生時代の墓地から出土した国内最古級の鉄鏃や，立小野堀遺跡の地下式横穴墓から出土した青銅鈴などがありました。また，天神段遺跡の中世墓地の一括資料と町田堀遺跡で出土した石刀を含む縄文時代後期の遺物は，県の有形文化財（考古資料）に指定されました。これらの他にも，身近な足下に過去の人々が生活した痕跡が眠っています。

本日は，発掘調査によって明らかとなった大隅半島における歴史の一端に想いを馳せていただければ幸いです。

志布志市での開催は，志布志市教育委員会にいろいろと御尽力いただきました。記して謝意と致します。

平成 30 年 10 月 13 日

鹿児島県立埋蔵文化財センター

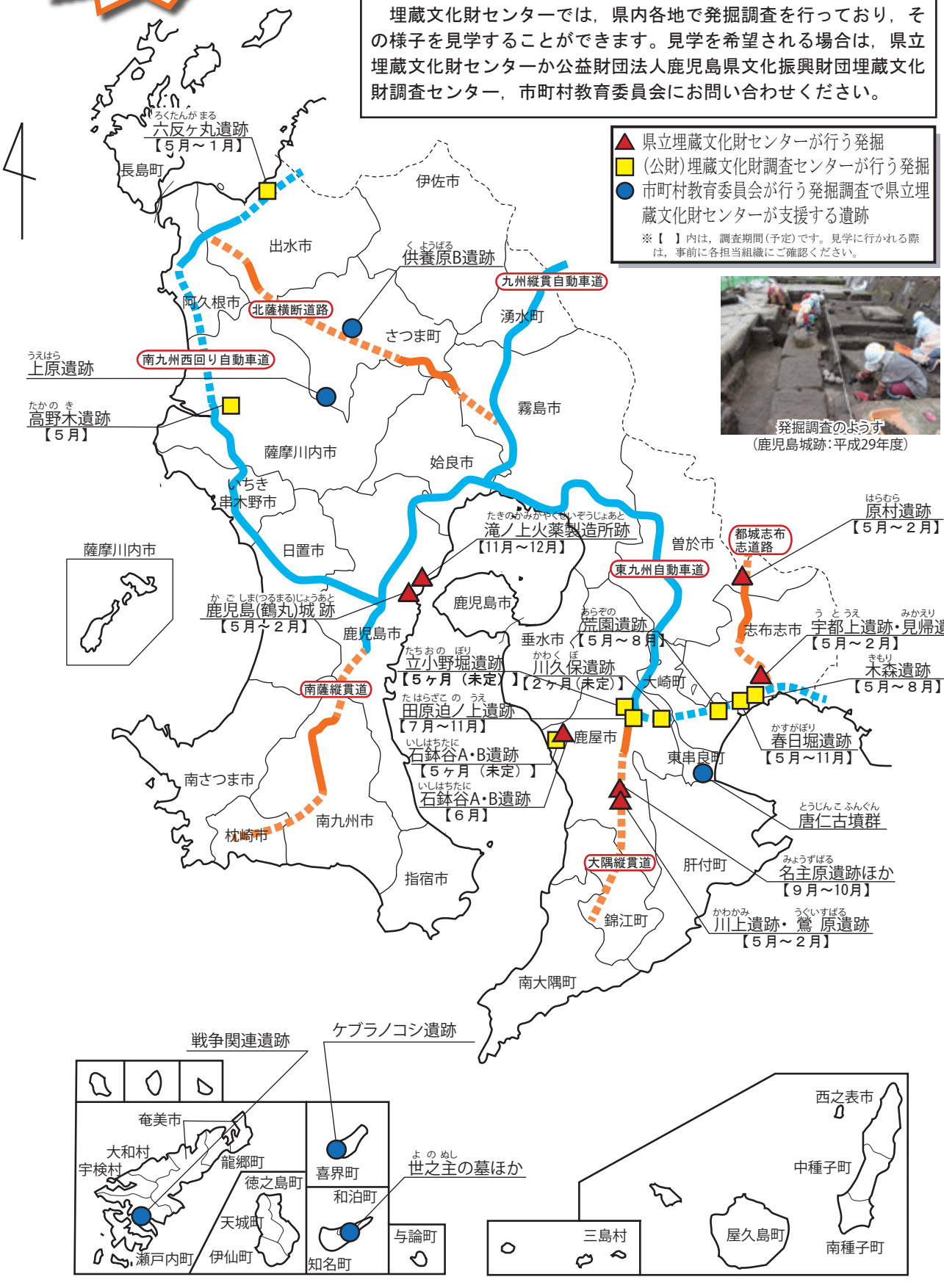
所　長　　堂　込　秀　人

MEMO

見学してみない？
発掘現場

平成30年度 発掘調査予定遺跡

埋蔵文化財センターでは，県内各地で発掘調査を行っており，その様子を見学することができます。見学を希望される場合は，県立埋蔵文化財センターか公益財団法人鹿児島県文化振興財団埋蔵文化財調査センター，市町村教育委員会にお問い合わせください。



発掘調査のようす
(鹿児島城跡：平成29年度)

近年の発掘調査からわかってきた大隅半島の歴史

県立埋蔵文化財センター　所長　堂込　秀人

1　はじめに

７月の西日本豪雨，９月の台風２１号，北海道地震と，ここのところ災害が絶えません。

西日本豪雨で土石流にあった広島市坂町の家屋の瓦礫の近くに，水害碑が建っていたことをご存じでしょうか。明治40年に46名が亡くなったと記録してありました。安佐北区などにも同様の水害碑があり，広島大学の先生が調べられて，まさに今から，地域の防災に広報・アナウンスしようとされていたとか（註１）。

つい先日の北海道の地震では，「清田区」で液状化の被害が伝えられています。清い水田であるので，沢があり水が豊かな水田地帯であったことがうかがわれます。そこを埋め立てて造成した団地であったそうです。住民が地域の土地の来歴に関心を持ち災害歴をもう少し認識していたら，少しは被害が軽減された可能性があります。防災や被害軽減の観点から，自分たちが住んでいる土地の来歴を知ることが重要であることを教えてくれます。郷土史を見直し，文化財を見直し，伝説や言い伝えを吟味して，昔からの土地の来歴を知らなければならないのではないか。特に文化財を担当する部局にいる者として，痛烈な反省を持って考えているところです。

考古学はさらに現代から遡ることが多いですが，目的の一つとして地域史の再構築をめざして，戦後発展してきたところもあります。現在では，地域にとって重要なものは新しい時期まで埋蔵文化財の範囲とされていますし，近代・現代のものでも考古学的な手法（発掘調査）により，記録を実証する動きもあります。

下の写真は大崎町永吉天神段遺跡発掘予定地にあった「モイドン」です。荒い神様が祀られているということで，木の枝を切ってもいけないと確認調査時に地元の方に聞いたところでした。そこを発掘調査した写真が次のページです。弥生時代中期のその時代にしたらとてもりっぱなお墓が出てきました。これが現代まで繋がって，２千年以上も口伝で守られてきたとしたら，すごいことだと思います。古くから謂われがある場所について言い伝えられている。それらは本来記録に残すべきことかもしれません。

写真１　モイドン

写真2　永吉天神段遺跡弥生墳墓

今日は大隅半島で近年盛んに行われた発掘調査の成果から，日本の歴史の中でどういう意味があるかを中心に述べたいと思います。そのことで，発掘調査や考古学をより身近に感じていただき，足下の歴史や土地の来歴に想いを馳せていただく契機になればと思います。

2　発掘調査と資料

私たちは発掘調査で過去の情報を可能な限り拾い出し，報告書によって，県民・国民の皆様に開示します。判断の誤りや掘削の方法の是非なども開示されますし，厳しい指摘を受けることもあります。与えられた予算と時間でのことですから，限界はあります。可能な限りの情報を出すために努力しているとこです。

私たちが提供した資料は，私たち自身が郷土教育の素材として，学校教育に生かせるように料理したり，大学の研究者などが，研究の資料として活用され，論文としてまとめたり，時間軸や地域で切り取られて，わかりやすい歴史の説明に使われていきます。また，さらにより詳しい研究の手がかりとされることもあります。本物を確認に見に来られる方もたくさんおられます。貴重な基礎資料として使われていくわけですから，責任は重大です。

最近は，土器付着炭化物の分析方法が進化して，年代測定も精度が上がりましたが，窒素・酸素同位体比から付着した炭化物が何の食物に由来するかを推定する研究や，土器の中にいたり外側に付着した昆虫の抜け跡やスタンプから，昆虫およびその生育環境を考察したり，新たな研究手法がいろいろと開発されています。石器では使った痕跡から，固いものか軟らかいものか，どんなものを対象とした石器かの考察もされます。報告書が刊行されても，土器や石器や有機遺物などは，さらに新しい情報を引き出せる材料となっていきます。そのため資料の保存や保管も重要な仕事となります。

写真3　上野原遺跡の壺

また，上野原縄文の森の企画展と今回の企画は同一歩調を取ったわけですが，自前の展示のみならず，全国の博物館等から展示のための資料の貸し出しの要望があります。左の写真の上野原遺跡の一対の壺形土器は，先日まで東京国立博物館が行っていた「縄文　一万年の美の鼓動」に展示され，その後パ

写真4　発掘作業風景

写真5　整理作業

リで行われる「ジャポニズム2018」にも展示される予定です。このような展示のための仕事もしています。

こうした成果は，県民の皆様の協力の賜です。発掘調査には大隅の多くの現場作業員さん，整理作業員さんの力をお借りしました。県立と(公財)の作業員さんで，多い年は６００名を越える方に従事していただきました。また上野原の整理作業にも１５０名を越える作業員さんに報告書刊行の整理をお願いしています。

これだけの手間とお金を使っての成果ですから，十二分に活用させていただきます。本当にありがとうございます。

3　発掘調査でわかったこと

教科書で習った内容を覚えていらっしゃいますか？　どこか遠くの出来事のようですが，前方後円墳は大隅にたくさん作られ，戦国時代は島津氏と覇を争った肝付氏が活躍し，NHKの『西郷どん』が放映される様に明治維新には本県が大いに関わっています。日本の歴史の中で，発掘調査の成果を位置づけてみたいと思います。列島の歴史の痕跡は地元に確実に残されています。最も遺跡がみられるのは約２万８千年前の姶良カルデラの噴火による火砕流堆積物であるシラス台地縁辺で，そこに住んで，シラス台地の中腹から末端にわき出す湧水を利用しています。縄文時代早期の定住化の場所がそうしたところです。弥生時代の米作りは北部九州から伝播したといわれていますが，米作りをどのように習ったのでしょうか。西は熊本県，東は宮崎県の弥生時代の人たちから習ったようです。律令制の国府は薩摩川内市と霧島市に置かれ，平家物語に出てくる桑幡氏は大隅正八幡宮（鹿児島神宮）の社家の一人です。条里があったことは薩摩川内市の京田遺跡から出土した木簡が教えてくれます。中世には県内で８００を越える山城がありました。奄美では，喜界島や徳之島の発掘調査の成果から，海洋に漕ぎ出して中国や琉球と交易を活発に行いました。そして，集成館などの近代化の遺産は世界遺産となりましたし，それとの関連遺跡がたくさんあります。近代末，第２次大戦，特攻基地は鹿児島が中心でした。こうした日本史のひとつひとつの小さな事実が，発掘調査を通して明らかになっていきます。

スライドで紹介したたくさんの遺跡の情報から，それぞれの時代でまとめてあります。本来はそ

の根拠を類例や全国の動向からひもといていかなければなりませんが，それだけで１冊の本では足らない分量となるぐらいです。いろんな大学の先生や専門家などの指導を受け，類例調査などから，報告書の刊行された遺跡では，報告書に書かれてあるものもあります。まだ刊行していない遺跡では，手持ちの材料からの推論となると思います。いくつかの遺跡については，この後の発表で詳しく述べられます。

概略で，わかったことのスライドを次のページに載せてありますので，ゆっくりご覧ください。断片的な用語が並んでいてわかりにくいとは思いますが，日本の歴史は，身近なところで展開していっていることを，書き物やフィクションではなく，事実として印されていることを感じていただきたいと思います。

こうした南九州の状況が，日本の考古学を考える上で，大変重要な資料となってきています。

遺跡からの歴史については，『先史・古代の鹿児島（資料編）』『先史・古代の鹿児島（通史編）』が県教育委員会から出されています。各市町村の図書館には入っていますし，上野原縄文の森のホームページで入って検索していただければ，コピーも可能です。興味があられたら，ホームページの内容ものぞいてみてください。

【註】

(1) 藤本理志，小山耕平，熊原康博「広島県内における水害碑の碑文資料」『広島大学総合博物館研究報告　８』2016. 12

大隅の道路事業の発掘調査でわかったこと

旧石器時代でわかったこと

- 火山灰による年代の特定
  - 道具類の変遷
  - 槍の使用？ 投げ槍？ 弓矢
- 開地遺跡における遺跡のあり方
  - キャンプサイト，回帰性
  - 永吉天神段、次五
- 原材料と加工，製作の様子
  - 技術一時代差，集団での差
  - 石材一移動？，交換経済，婚姻？

考察・論文

縄文時代でわかったこと

- 早期　遺跡・遺物が多い～南九州の特徴
  - cf定住性
  - 天神段、船迫、平良上C、次五など
- 中期　瀬戸内の土器など西日本の土器の流入
  - 京ノ塚遺跡
- 後期　列島縄文文化との連動
  - 環状の遺構配置=村のあり方
  - 小牧遺跡、牧山遺跡
  - 石剣，石刀の祭祀
  - 天神段遺跡、町田堀遺跡

弥生時代のわかったこと

- 弥生時代の全国的な動きと歩調を合わせながら，独自性
  1. 弥生時代中期に列構造をなす墳墓群と首長墓が検出　永吉天神段遺跡
  2. 弥生時代の集落構造が判明
     - 径10mほどの大型住居，小型の住居，住居近くの4本柱の掘立柱建物，場を異にする掘立柱建物跡，円形周溝が伴う
     - 十三塚、田原迫ノ上、加治木堀、長田など

  3. 弥生時代は金石併用期
     - cf. 弥生時代鉄器文化論
     - 鉄鏃の使用，銅ノミ(生産遺跡との関係)
     - 永吉天神段遺跡、牧山遺跡
     - 金属器の使用の明確化
  4. 谷、丘陵沿いでの単位集団の動き
     - 「分村の法則」
     - 田原迫ノ上、高吉B、下堀、長田など
  5. 地下式横穴墓は弥生時代から？
     - 古墳時代へつづく～

古墳時代のわかったこと

- 円形周溝に地下式横穴墓の形成
  - 家族墓、血縁関係での集団？
  - 立小野堀遺跡、町田堀遺跡
- 集落　鍛冶工房　川久保遺跡
- 鉄製武器
  - 近畿とつながるものと独自のもの

※「貝の道」，前方後円墳の分布状況
次第に近畿の国家に組み込まれていく

古代・中世のわかったこと

- 製鉄遺跡～鉄器使用の汎用化～早い
- 「道は道」だった　仕明、下原、船迫など
  - 最短コースは重なる
  - 古代官道，中世流通路，湊，神社
  - 西遷御家人の配置
- 中世地下式土坑の存在　永吉天神段遺跡
  - 鎌倉幕府との関係
  - 大隅は北条得宗領

MEMO

天神段遺跡の発掘調査成果
（曽於郡大崎町野方）

（公財）埋蔵文化財調査センター　文化財専門員　立神　倫史

1　はじめに

天神段遺跡は，菱田川支流の大鳥川が浸食して形成されたシラス台地の北端，標高約200mのところに立地しています。東九州自動車道建設に伴い，平成19～25年度まで７年間にわたり発掘調査が行われました。その結果，旧石器時代から近世に及ぶ多くの遺構・遺物が確認されました。

今回は，旧石器時代～縄文時代草創期（約２万4000年前から１万2800年前），縄文時代早期（約1万2800年前～7300年前），中世初頭（約900年前～800年前）の調査成果を中心に紹介します。

中世の土坑墓から出土した遺物は，平成28年４月に県の有形文化財（考古資料）に指定されました。また，旧石器時代の遺物は「発掘された日本列島2018　新発見考古速報」展において全国を巡回展示中です。

図1　天神段遺跡位置図

2　旧石器時代～縄文時代草創期（約２万4000年前から１万2800年前）

旧石器時代～縄文時代草創期の遺構・遺物は，約３万年前の姶良カルデラの噴出物（シラス）層と約１万2800年前の薩摩火山灰層の間で確認されました。旧石器時代の活動痕跡は大きく３つの時期で確認できました。

最下層の15層では，礫群１基，炭化物集中区１ヶ所が見つかりました。また石器も数点出土しました。天神段遺跡で最古の時期にあたります。

次に11層から12層では，礫群10基やナイフ形石器と三稜尖頭器，台形石器が見つかりました。特にナイフ形石器や台形石器は平均で2.0～2.5cmほどの小型のものが多いのが特徴です。

薩摩火山灰層に近い９～10層では，礫群１基，細石刃核，細石刃，縄文時代草創期に位置づけられる土器，石鏃が見つかりました。石器の石材には，玉髄や水晶，地元産の黒

写真1　遺跡遠景（南より）

写真2　土層断面

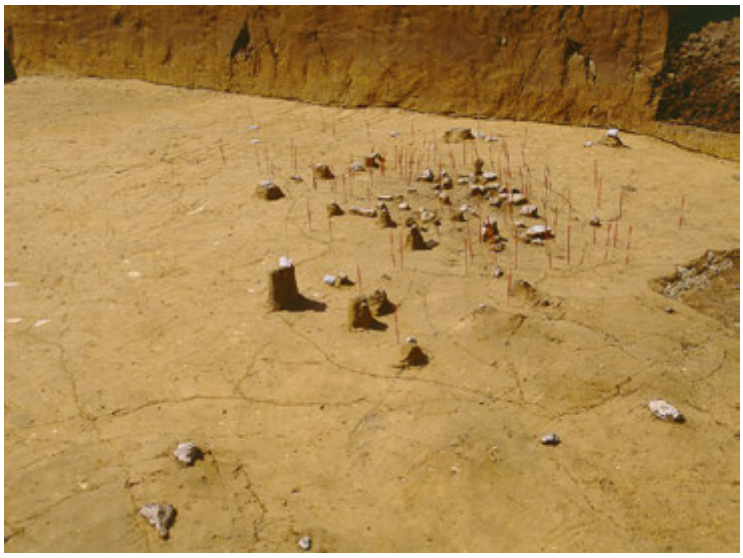


写真3　第 15 層　礫群

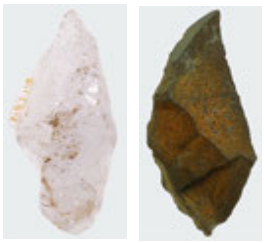


写真4　小型ナイフ形石器

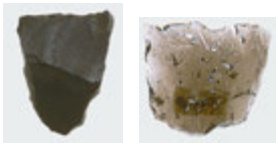


写真5　小型台形石器

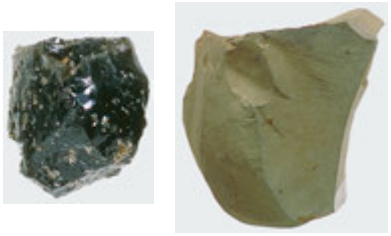


写真7　細石刃核

写真6　接合資料

写真8　細石刃

曜石や頁岩が利用されています。

旧石器時代の遺物で特筆されるのが，400組以上の接合資料が得られたことです。接合資料より細石刃核の製作技術が大きく２つに分かれることが分かりました。１つは，黒曜石を素材にして，１つの小型の原石から１つの細石刃核を作るもので，遺跡の北東部より主に出土します。もう１つは頁岩を素材にして，こぶし大の石を分割して複数の細石刃核を製作するもので，遺跡の南東部より主に出土します。このように出土する分布が異なるのは，遺跡内の空間利用のあり方を示していると考えられています。写真６は，調査員の間で「加治木まんじゅう」の愛称で呼ばれている接合資料です。

3　縄文時代早期（約1万2800年前～7300年前）

縄文時代早期の遺構・遺物は，約１万2800年前の薩摩火山灰層と約7300年前の鬼界アカホヤ火山灰層の間で確認されました。調理施設と考えられる集石遺構が313基見つかりました。これは県内最大数です。竪穴住居状遺構９基，連穴土坑32基，落とし穴５基など数多くの遺構が確認できました。

写真9　集石遺構

写真 10　竪穴住居状遺構

写真 11　連穴土坑

写真 12　落とし穴

また，現在南九州で認識されている縄文時代早期の土器型式の多くが確認されました。土器型式とは，土器を形や文様などの特徴によってまとめたものです。それぞれの土器型式は，最初にまとまって発見された遺跡の名前などをつけて「～式土器」と呼称しています。このまとまりは，時間や地域の違いを示すものとして用いられています。天神段遺跡では縄文時代早期の初めの頃の土器型式から終わりの頃の土器型式までがほぼ間断なく見つかっています(写真13)。このことから縄文時代早期の長い期間(約5,500年間)にわたり，天神段遺跡で人々が生活していたと考えられます。

煮炊きに用いたと考えられる深鉢形土器一つとっても5,500年間の間で，様々な変化を遂げていきます。ここでは，その特徴を簡単に紹介します。縄文時代早期の初めの頃(早期前葉)(約１万1000年前)の土器(写真14)は，二枚貝の縁で文様をつけています。土器の外側に貝殻の縁を押し当てたり，引きずったりしながら文様をつけています。写真14左のような円筒形の土器だけでなく，右のように四角に角張った形の土器(角筒土器)も作られました。天神段遺跡では，底しか見つかっていませんが，上から見るとレモンの形をした土器も作られていました(写真15)。土器だけに限ら

写真 13　天神段遺跡出土縄文早期土器

写真 14　縄文時代早期前葉土器

写真 15　レモン形土器底部

写真 16　他地域でつくられた土器

写真 17　押型文土器

ず，南九州特有の文化的特徴をもっていた時期です

次に早期の中頃(早期中葉)(約9,000年前)になると，南九州以外のところで作られたと考えられる土器(写真16)やこれまでの南九州の土器作りの伝統になかった文様をつける土器が見つかっています。写真17は，押型文土器と呼ばれるものです。押型文とは丸い棒に刻みを入れて転がすとできる文様です。南九州には，それまで文様をつける際に，道具を転がすという伝統がありませんでした。この押型文土器をはじめ，縄文時代早期中葉頃より，このような道具を回転させて文様をつけた土器が増え，貝殻の文様をつけた筒形の土器は次第に姿を消していきます。土器の文様だけでなく，他地域からの強い文化の流入があったと考えられます。

最後に早期の終わり頃(早期後葉～末)(約8,000年前)になりますと，縄を転がして文様をつける土器が増えてきます。いわゆる「縄文」の登場です。南九州では，縄文をつける伝統は東日本などに比べて遅れて登場します。先ほどの押型文土器同様に南九州以外のところからの影響と考えられています。縄文のバリエーションは次第に豊かになり，写真18のように縄を結んで結び目が文様として現れたもの(結節縄文)や写真19のように縄を丸い棒に網の目状に巻き付けて文様をつけたもの(網目状撚糸文)が登場します。しかし，この後再び貝殻の文様をつけた土器(写真20)が登場します。ラッパ状に開いていた土器の形も円筒形に変化していきます。なぜそのようになったのか詳しくは分かっていません。そして約7,300年前鬼界アカホヤ火山灰が降下した頃に縄文時代早期が終わりを遂げます。天神段遺跡に再び人々の活動痕跡が見られるのは，約6,000年前頃になります。

写真 18　平栫式土器

写真 19　塞ノ神 A 式土器

写真 20　苦浜式土器

4　中世初頭（約900年前～800年前）

中世初頭に該当する土坑墓が８基確認され，土坑墓の中には，完形の鏡，青磁の碗や青白磁の小壺，鉄製のやじりなどの豊富な副葬品が発見されたものもあります。また，掘立柱建物跡７棟，竪穴状遺構２基，土坑90基など多様な遺構が見つかりました。

このように質・量とも豊富な副葬品をもつ土坑墓や多様な遺構群より，ある程度高位の一族を中心とした集落の様相が窺え，当時の地域及びその周辺の歴史を紐解く上で貴重かつ注目される資料と考えられています。

写真 21　土坑墓と副葬品

5　さいごに

遺跡が所在する大崎町野方は現在も，鹿屋，輝北，都城，志布志を結ぶ交通の要衝に立地しています。旧石器時代以降，天神段遺跡周辺には各地を結ぶ道が通り，人や物の往来があったことが想定でき，そうした痕跡の一端が発掘調査を通じて明らかになりました。

【参考文献】

眞邉　彩　2018　「天神段遺跡」『発掘された日本列島2018　新発見考古速報』文化庁

【註】

図・写真に関しては発掘調査報告書より転載（一部加工，縮尺不同）

MEMO

川久保遺跡の発掘調査成果
（鹿屋市串良町細山田）

県立埋蔵文化財センター　文化財主事　湯場﨑　辰巳

1　はじめに

川久保遺跡は，東九州自動車道の建設に伴って，平成26年度から発掘調査を行っています。

旧石器時代（約１万5000年前）・縄文時代早期（約9,000年前）の遺構・遺物や巨大な地震に伴う噴砂跡（約7,300年前），弥生時代，古墳時代，中世の遺構・遺物も多く出土しています。

〈遺跡の立地〉

遺跡は，大隅半島中部を東に流れ，太平洋に注ぐ肝属川の支流，串良川右岸に隣接するシラス台地の縁辺部標高30～60ｍの河岸段丘に立地します。串良川との比高差は約10ｍです。

第1図　川久保遺跡位置図（縮尺任意）

2　中世（約700～800年前）

中世の遺構は，掘立柱建物跡約50軒，土壙墓３基，溝約20条が発見されています。遺物（土師器や陶磁器）から12～14世紀の集落と推定されます。白磁（中国の磁器）や瓦器椀（畿内で生産された土器）などが出土することから，有力な集落の一つだったことが推定されます。

集落は，溝や段で３～４つに区画されており，最も標高の高い西側に大きな建物跡が見られます。また，南側は建物跡や溝が少なく，耕作地だった可能性があります。

写真1　白磁（11 世紀末～ 12 世紀）

写真2　瓦器碗（13 世紀末～ 14 世紀）

3　古墳時代（約1,500年前）

古墳時代の遺構は，ほとんどが竪穴住居跡で，約70軒発見されています。

遺跡東側の串良川に近い住居からは，金床石や鞴の羽口などの鍛冶（鉄の加工）に関する遺物が出土しており，注目されます。特に鞴の羽口は，高坏の転用品だけでなく，専用品が発見されています。これは，鍛冶を専門に仕事を行っていた人々がいた可能性があります。

また，遺跡西側の小高い山を越えた場所には，地下式横穴墓（古墳時代のお墓）が多数発見されている町田堀遺跡や串良川を挟んだ向かい側には，古墳時代の集落跡が発見されている小牧遺跡があり，その時期や関係性を含めて，研究が進むことが期待されます。

写真3　竪穴住居跡 16 号

写真4　鞴の羽口（転用品）

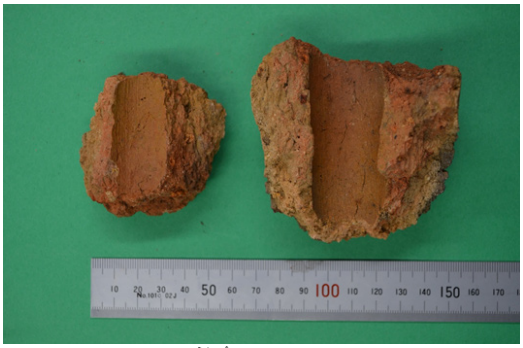


写真5　鞴の羽口（専用品）

4　今後の期待される研究成果

（１）　中世の集落の構成の実態

（２）　鹿児島における古墳～古代の製鉄の解明

（３）　古墳時代の集落構成や鍛冶の実態

（４）　古墳時代の周辺遺跡との関係性

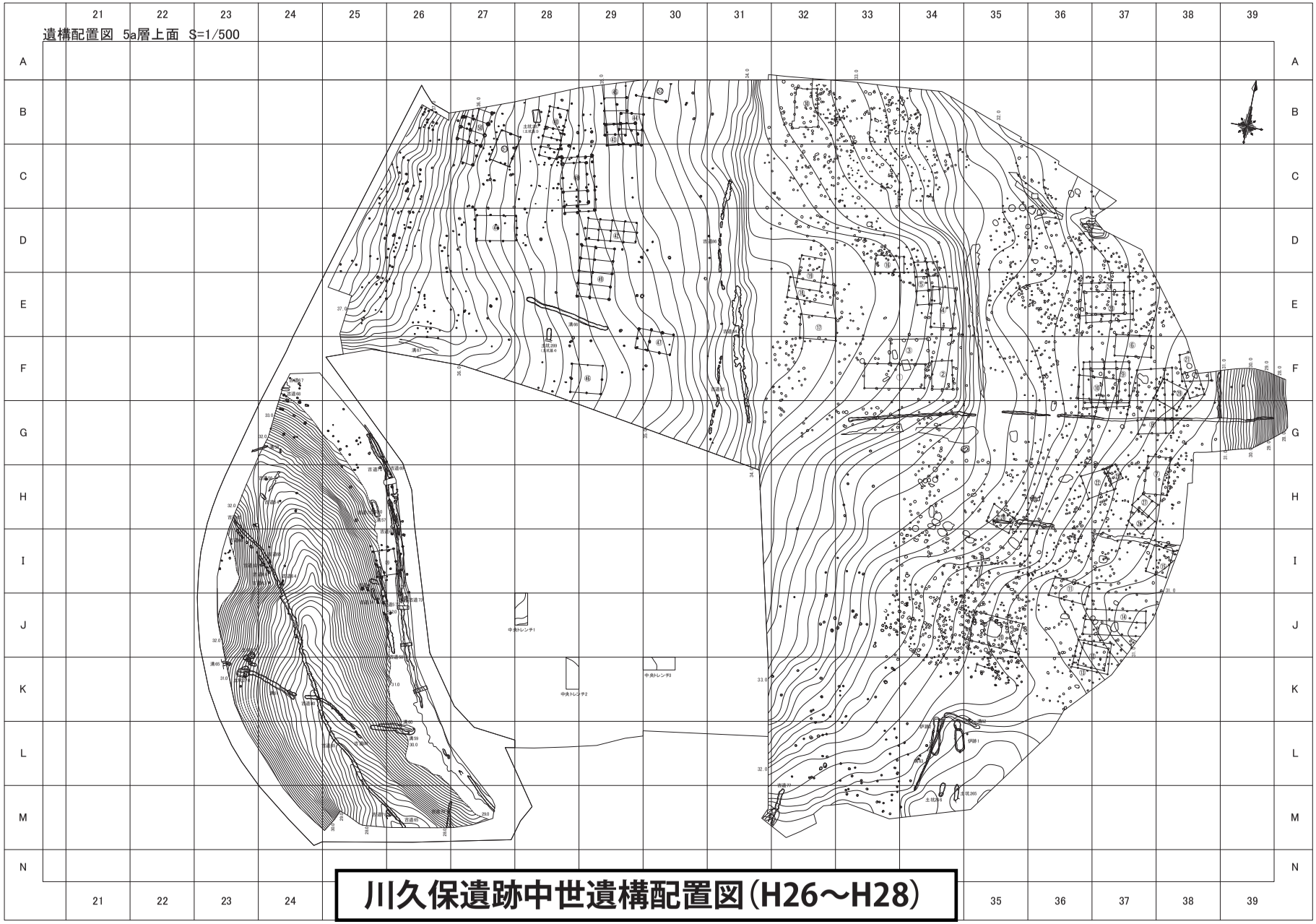
その他にも

・旧石器時代の石器製作

・縄文時代草創期の石器構成

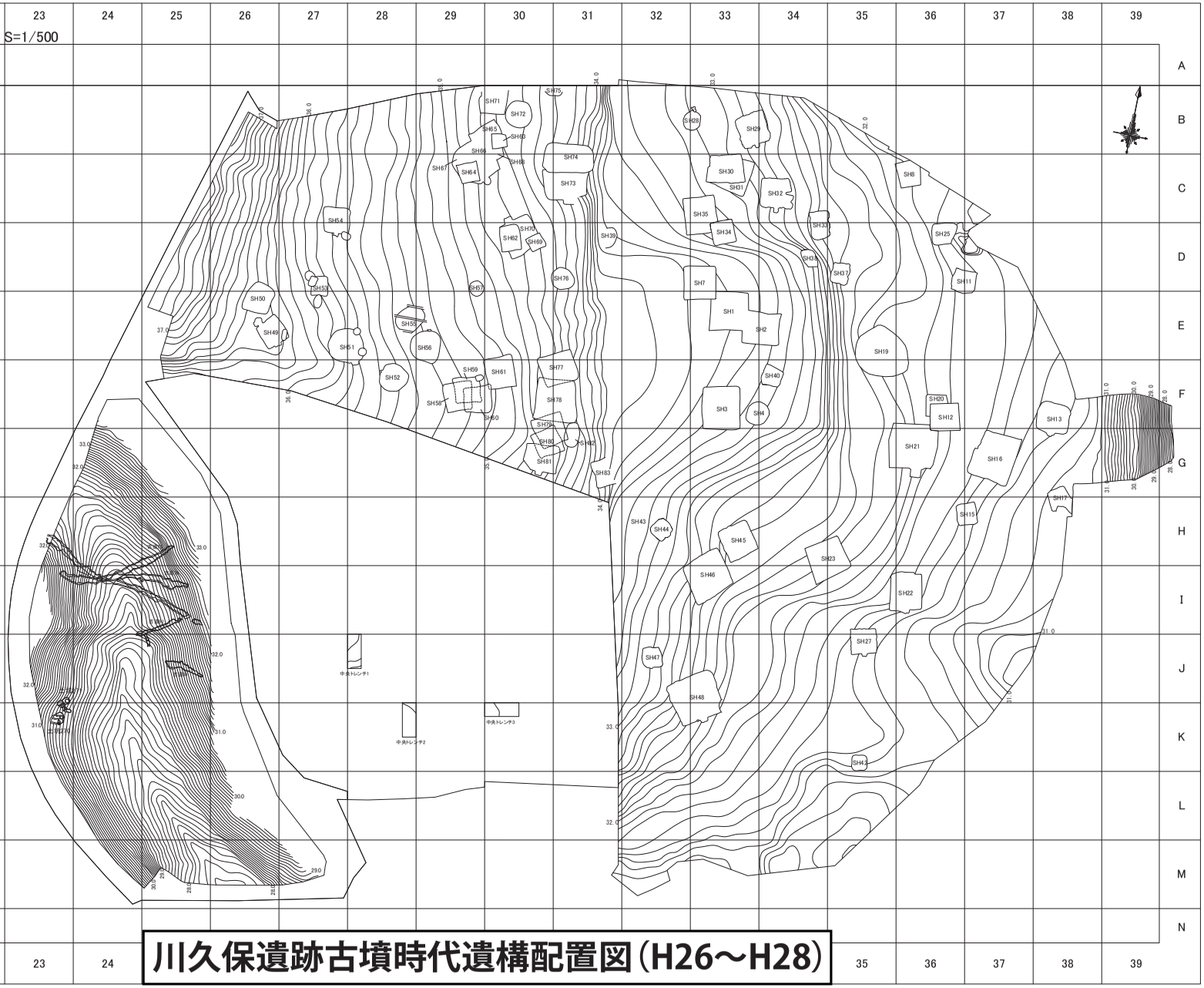
・縄文時代早期の集石や連穴土坑

遺構配置図　5a層上面　S=1/500



川久保遺跡中世遺構配置図（H26～H28）

遺構配置図（古墳時代） S=1/500



川久保遺跡古墳時代遺構配置図（H26～H28）

小牧遺跡の発掘調査成果

（鹿屋市串良町細山田）

（公財）埋蔵文化財調査センター　文化財専門員　横手　浩二郎

１　はじめに

小牧遺跡は，東九州自動車道の建設に伴い発掘調査が行われた遺跡です。まず，平成 25 年度に県立埋蔵文化財センターが事前調査を実施して建設予定地内での遺跡の広がりと深さを調べた後，平成 27 年度から平成 29 年度まで，予定地内での発掘調査を行いました。

２　小牧遺跡の位置と周辺の環境

小牧遺跡は，大隅半島中央部に広がる笠野原台地の北東端にあり，遺跡のすぐ西側には，串良川が南に向かって流れています。

遺跡の標高は約 60 メートルで，串良川と谷で周囲の土地から切り離された小さな台地上にあります。

また，鹿屋市串良町には，本遺跡のほか，県指定史跡である「岡崎古墳群」や県指定有形文化財の「短甲　衝角付冑」，また，100 基を超える古墳時代の墓や副葬品の鈴（国内では３例目）が発見された立小野堀遺跡など，古墳時代の遺跡や遺物が数多く見つかっています。さらに，同じく県指定史跡である「笠野原土持堀の深井戸」によって，江戸時代における笠野原台地の開墾と維持の工夫の様子を垣間見ることもできます。

３　発掘調査のおおまかな成果

小牧遺跡では，旧石器時代（約 30,000 年前，約 15,000 年前），縄文時代早期～晩期（約 10,000～3,000 年前），弥生時代中期（約 2,000 年前），古墳時代（５世紀頃～８世紀頃），古代（平安時代頃），中世（鎌倉～室町時代頃）の遺構や遺物が発見され，各時代の集落や人々の活動の場として，長く使われ続けてきた場所であることがわかりました。

中でも，縄文時代後期前半（約 4,000 年前）の地層からは，肝付町高山の国見山で採れる花崗岩で作った石器（石皿：重さ 10 kg前後）を割って，それを（間隔は不揃いながらも）半径 30 メートル前後の円形になるように地面に埋めた施設が発見されました。さらに，その外側に，施設を囲むかのように火を使う施設（集石）と竪穴住居があったこともわかりました。このような集落は「環状集落」と呼ばれ，東日本ではよく発見されますが，西日本ではほとんど発見されていません。

これらの調査成果は，今年度からとりかかっている報告書作成作業で整理・分析しているところですが，大隅半島が，日本史の中でどのように位置づけられることになるでしょうか。

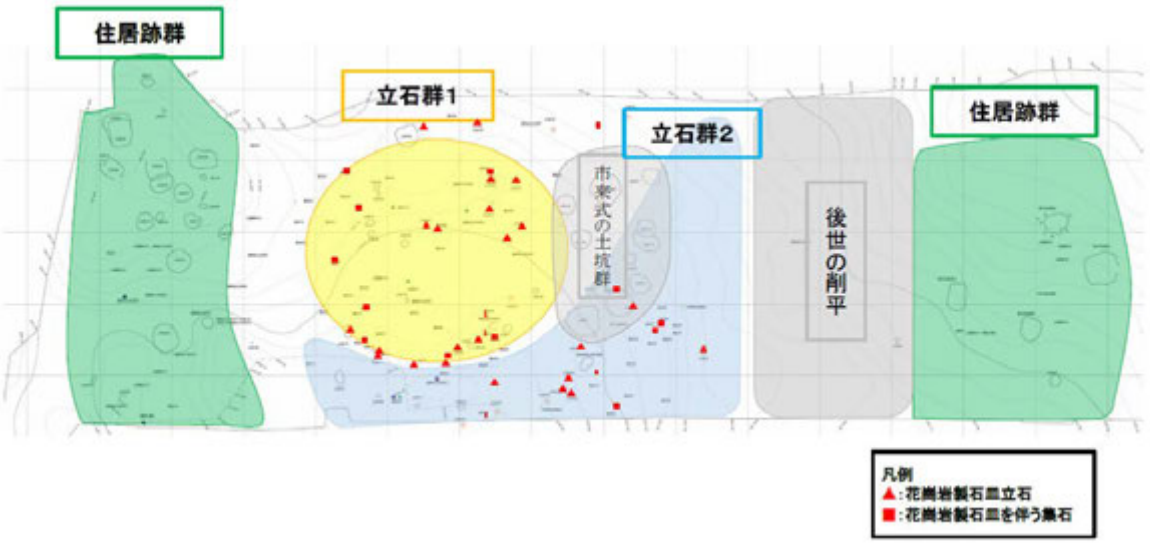


図１　縄文時代後期前半の「環状集落」の状況図

写真１，２　花崗岩製石皿の出土状況

写真３　花崗岩製石皿を伴う集石

写真４　花崗岩石皿を伴う竪穴住居跡

永吉天神段遺跡の発掘調査成果
（曽於郡大崎町永吉）

県立埋蔵文化財センター　文化財主事　隈元　俊一

1　はじめに

県立埋蔵文化財センター・（公財）埋蔵文化財調査センターは，東九州自動車道建設に伴い，その路線内にある遺跡の調査を行ってきました。平成20年度の石縊・十三塚遺跡をはじめとして，鹿屋串良ＪＣＴ～志布志ＩＣ間で，現在調査中の遺跡を含めて19遺跡の調査を行ってきました。各遺跡の調査結果は，報告書としてまとめられている最中ですが，大隅半島の歴史を解明していく上で貴重な資料となる遺構・遺物が発見されています。ここでは，平成24年度から平成27年度に発掘調査を行った，永吉天神段遺跡の発掘調査成果の報告を行います。

図1　永吉天神段遺跡位置図

2　永吉天神段遺跡の位置と周辺環境

永吉天神段遺跡は，曽於郡大崎町永吉にあります。　東側と南西側を持留川とその支流に挟まれた標高約35～50ｍのシラス台地に立地しています。周辺の台地の麓には彦三所大権現や档ケ山古石塔群があり，中・近世において歴史的に重要な地域であったことがうかがえます。

3　永吉天神段遺跡の発掘調査成果の概要

表1　永吉天神段遺跡　遺構・遺物の概要

時代	遺構	遺物
旧石器時代	ブロック，礫群	尖頭器，ナイフ形石器，台形石器，剥片
縄文時代早期	集石，土器埋設遺構	前平式・加栗山式・吉田式・押型文・下剝峯式・手向山式・平栫式・塞ノ神式・苦浜式・条痕文土器，石鏃，石匙，石斧，磨石，敲石，石皿
縄文時代前期	―	曽畑式土器
縄文時代後期	―	岩崎上層式・北久根山式・中岳Ⅱ式土器
縄文時代晩期	竪穴住居跡，落とし穴，土坑	入佐式・黒川式・刻目突帯文土器，管玉，打製石斧
弥生時代	竪穴住居跡，円形周溝墓，土坑墓群，掘立柱建物跡，土坑	入来式･山ノ口式･黒髪式土器，鉄鏃，磨製石鏃，管玉
古墳時代	竪穴住居跡，土坑	成川式土器，須恵器
古　　代	掘立柱建物跡，土坑	須恵器，土師器
中　　世	掘立柱建物跡，土坑墓，地下式坑，火葬土坑，土坑	白磁，青磁，土師器，瓦質土器，東播系須恵器，備前焼，常滑焼，湖州六花鏡，砥石，石塔，古銭
近　　世	近世墓	薩摩焼，染付，寛永通宝，石臼

永吉天神段遺跡の調査概要は表１のとおりです。旧石器時代から近世まで，様々な時代の遺構・遺物が確認されている複合遺跡です。特に弥生時代と中世の遺構・遺物が注目されます。

４　永吉天神段遺跡の発掘調査成果の詳細（弥生時代）

永吉天神段遺跡では弥生時代の遺構・遺物が数多く発見されました。中でも大きく目を引くのが県内最古に位置づけられる円形周溝墓です。

この円形周溝墓は，遺跡内でも最も標高の高い微高地の最頂部で検出されました。またその周辺でも多数の墓と思われる土坑が検出され，当時墓域として使用されていたことが分かりました。一口に墓といってもおおよそ３つのタイプに分類できました。タイプ１は平面プランが細長く深い墓，タイプ２は平面プランが幅広で浅く，磨製石鏃や管玉など遺物を伴う墓，タイプ３は竪穴を掘り，その後横に掘り進む墓（横口式土坑墓）です。円形周溝墓はタイプ１でした。後述しますが，鉄鏃が出土した墓はタイプ２でした。横口式土壙墓は，県内ではこれまでに志布志市松山町の京ノ峯遺跡と，同じく志布志市の高吉Ｂ遺跡でのみ検出されており，その２つの遺跡のものよりも古いと考えられています。

また，微高地西側には小型の方形竪穴建物跡と掘立柱建物跡が隣接して検出されていて，祭祀を行う墓前建物の可能性があるとのことです。

また，墓域と思われる地点から谷を挟んだ東側には，竪穴住居跡や掘立柱建物跡が複数検出されています。つまり，当時永吉に住んでいた弥生人たちは，自分たちが住む場所（住居域）と，死者を埋葬する場所（墓域）を分けていたことが分かりました。

写真1　タイプ1（円形周溝墓）

写真2　タイプ2（幅広・遺物を伴う土坑墓）

写真3　タイプ3（横口式土坑墓）

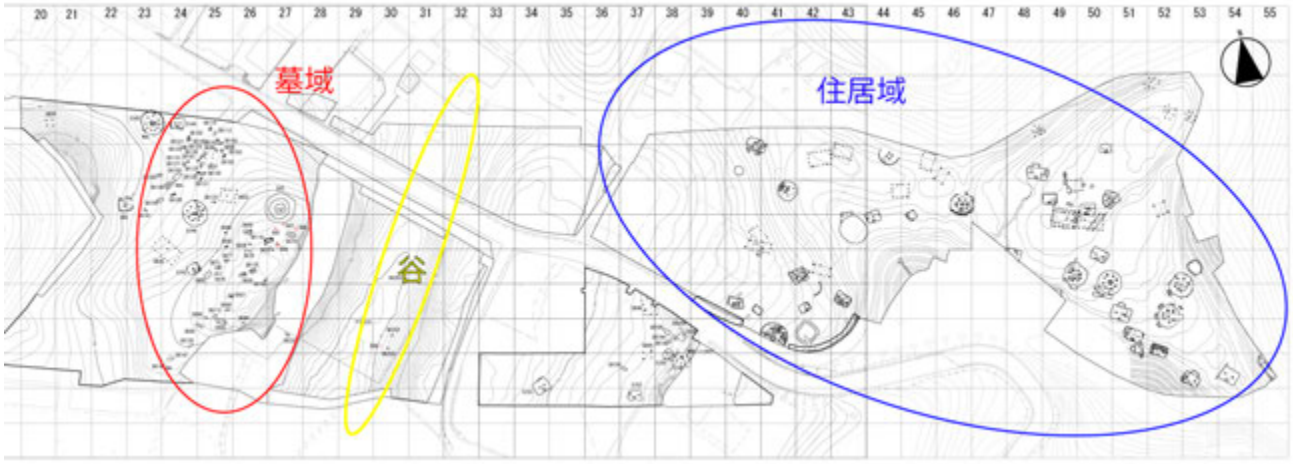


図2　永吉天神段遺跡　弥生時代遺構配置図

遺物については先述しましたが，土坑墓から鉄鏃が出土しました。調査を行ったところ，国内でも最古級に位置づけられる鉄鏃であることが分かりました。また，磨製石鏃や管玉なども出土しました。土器は入来Ⅱ式土器や山ノロⅠ式土器など，弥生時代中期の土器が数多く出土しました。

写真4　弥生時代　鉄鏃

5　永吉天神段遺跡の発掘調査成果の詳細（中世）

本遺跡では中世の遺構・遺物も多く見つかりました。おおよそ２時期に分かれ，11世紀後半から12世紀頃の中世初頭と，14世紀から15世紀の中世後半のものが多く発見されました。

まず中世初頭のものについては，副葬品を伴った土坑墓があります。写真５の土坑墓は，長軸が南北方向に掘られており，方角を意識した掘り方です。副葬品は白磁碗２点，湖州六花鏡，ミニチュア土器でした。

中世末のものについては，火葬土坑や地下式坑が検出されました。

火葬土坑はその名の通り火葬を行ったと思われる施設の跡です。遺体を安置したと思われる土坑から空気の流入口と思われる細長い張り出しがあります。土坑の壁面には礫が貼り付けられ，石組になっていました。

写真5　中世土坑墓

地下式坑は本遺跡が南九州初の検出例になりました。地下式坑は国内では関東地方で多く見つかっていますが，九州でも少数ながら大分，福岡，熊本で見つかっています。本遺跡では10基発見

されました。発見された地下式坑は，ほとんどが大きく深く掘られたもので，幅が2.5m以上，深さ３m以上あるものもありました。地下式坑内から遺物はあまり見つかりませんでしたが，大型の瓦質土器が見つかったものもありました。

地下式坑が作られた理由として大きく４つの説があります。１つめは死者を葬るために掘られた葬送施設説，２つめは僧（修験者）が即身仏になるために修行を行った宗教施設説，３つめは食料や大事なものを貯蔵していた貯蔵施設説，４つめは危険なときに身を隠すシェルター説です。遺物や周辺の状況からすると１つめの葬送施設が一番可能性が高いと思われますが，遺跡近くに修験道で有名な大分の英彦山神宮の流れをくむ彦三所大権現があり，修験道の影響を受けた宗教施設の可能性もあります。

写真6　火葬土坑

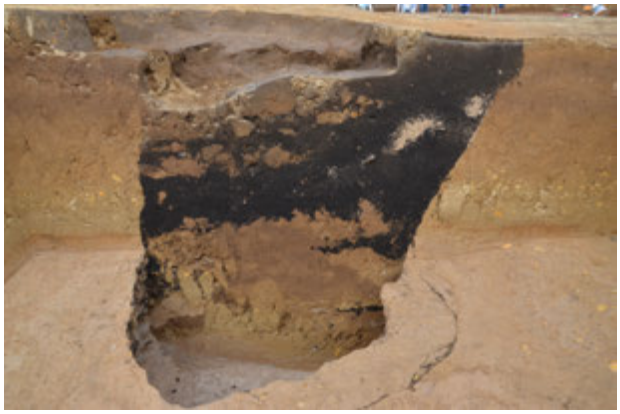


写真7　地下式坑

6　終わりに

永吉天神段遺跡の４カ年にわたる発掘調査で，この地域は旧石器時代から現代まで，人々の暮らしが連綿と続いてきたことが分かりました。今後は整理作業・報告書作成作業を続けていき，永吉で暮らした人々の歴史を解明し，未来に残していければと思います。

写真 10　調査中の永吉天神段遺跡と建設中の東九州自動車道

次五遺跡の発掘調査成果
（志布志市有明町野井倉）

志布志市教育委員会　主任主査　相美　伊久雄

1　はじめに

次五遺跡は志布志市有明町野井倉字次五・横堀にあります（図１）。東九州自動車道建設に伴い，平成26・27年度に志布志市教育委員会が発掘調査を行いました。そして，平成28・29年度に整理・報告書作成を行い，平成30年３月に発掘調査報告書を刊行しました。

発掘調査の結果，旧石器時代細石刃文化期（約15,000年前頃），縄文時代早期前半（約11,000～9,000年前頃），そして縄文時代中期（約5,000～4,000年前）の遺跡であることが分かりました。特に，縄文時代早期前半の遺物や遺構が数多く見つかっています。

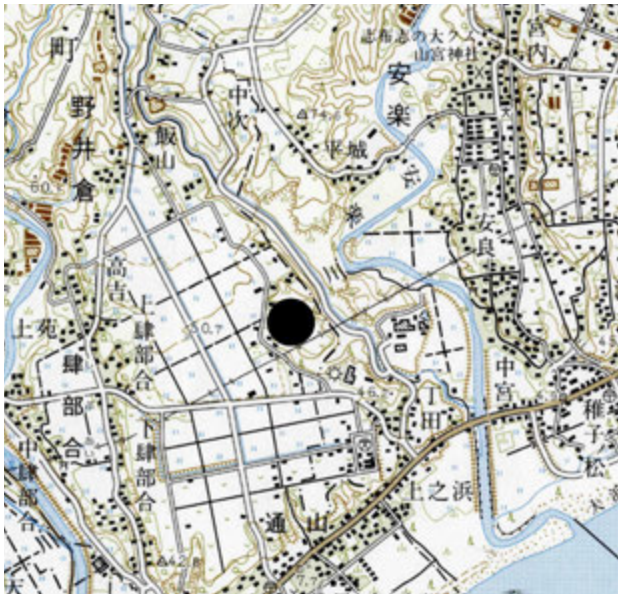


図1　次五遺跡位置図

2　遺跡の位置とその地形

次五遺跡は「野井倉原」と呼ばれるシラス台地の縁辺部から舌状に突き出た場所にあり，安楽川河口から約1.5km上流の西岸に位置します。標高は約45ｍで，西から東へ緩やかに傾斜しています。眼下には，安楽川に合流する小河川が流れています。

次五遺跡の発掘調査前の状況は，一部に雑木林がある以外はほぼ平坦な畑地でした。しかし，薩摩火山灰層上面での地形測量図で示したとおり，元々は起伏の大きな地形であったことがわかりました（図３参照）。

3　調査の成果

（１）　旧石器時代細石刃文化期（約15,000年前頃）

○石器製作跡と畦原型細石刃核の発見

旧石器時代の遺物は，調査範囲の最も東側（Ｂ～Ｄ－１・２区）の狭い範囲にのみ見つかりました。見つかった石器は主に細石刃と呼ばれる細長く超薄型のカミソリのような石器と，それを剥ぎ取る元になる細石刃核と呼ばれるものです。そして，それらが集中している箇所（ブロック）が２ヶ所見つかりました。当時の人々が狩猟などをしながら移動する生活を送っている際にこの地に立ち寄り，石器を作っていたことが想像されます。

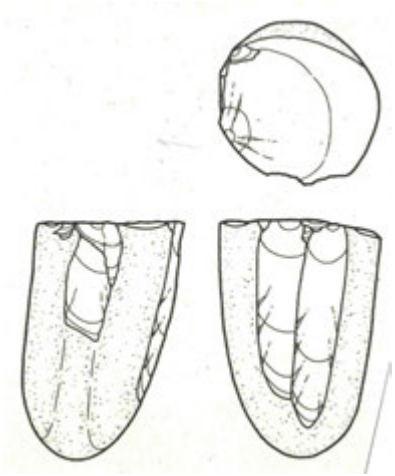


図2　畦原型細石刃核

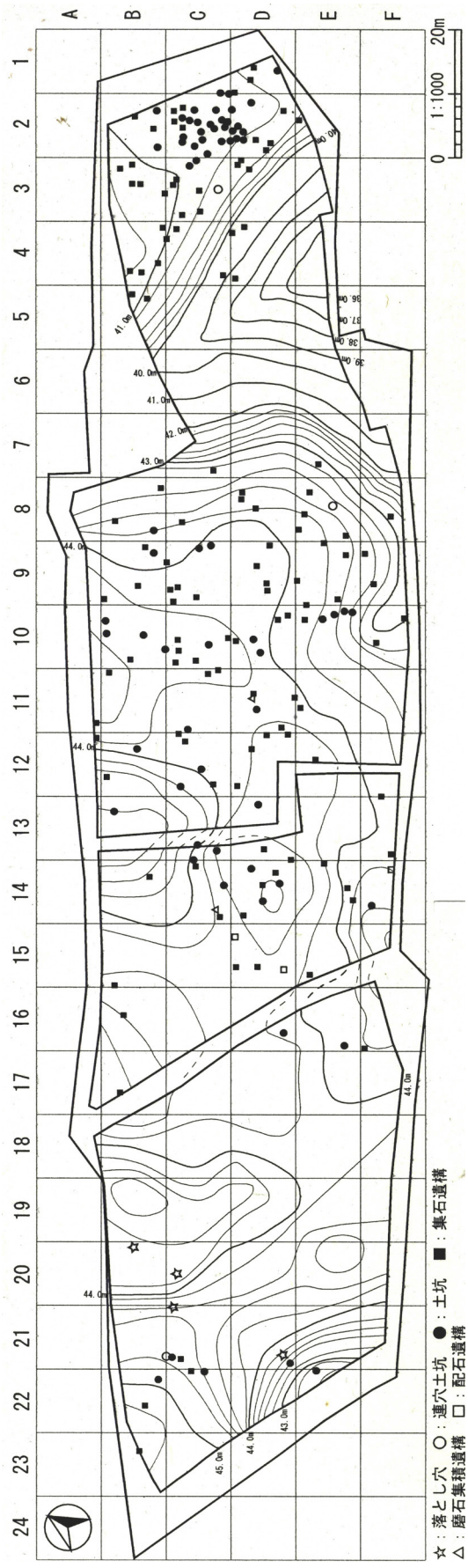


図3　縄文時代早期の遺構配置図

なお，細石刃核には黒曜石を素材としたものと珪質頁岩を素材とした畦原型細石刃核が見つかっています。この畦原型細石刃核は小型の円礫を半分に割ってできた分割面から細石刃を剥ぎ取るものです（図２）。この細石刃核は宮崎平野部において多く認められており，志布志市内では３遺跡目の発見となりました。

（２）　縄文時代早期前半（約11,000～9,000年前頃）

○早期前半の多様な土器や石器，そして連穴土坑と多数の集石遺構の発見

縄文時代早期初頭の岩本式土器（約11,000年前）から早期中頃の手向山式土器（約9,000年前）が出土しており，早期前半の土器群がほぼ全て見つかっています。食料などの煮炊きや貯蔵に使用した土器と同じく生活必需品である石器も見つかっています。矢の先に付けて狩猟に利用する石鏃や，木の実などを磨りつぶすための磨石・敲石がそれぞれ100点以上見つかりました。石器製作跡（石器集中部）も８ヶ所見つかっています。

また，燻製目的または木の実の乾燥貯蔵目的の施設である連穴土坑が３基，石蒸し調理の施設である集石遺構が128基見つかりました。さらに集石遺構に使われていた膨大な数の被熱破砕礫（火を受けて割れた礫）も出土しました。調査の際は礫を取り上げても，さらにその下から礫が見つかるという状況だったので，当時の人々が集石遺構の礫として何度も繰り返し利用していたことが想像できました。

写真1　被熱破砕礫出土状況

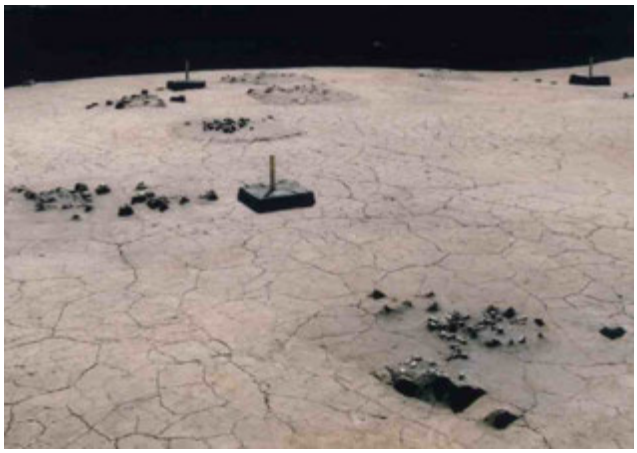


写真2　集石遺構

写真3　連穴土坑

このような遺物や遺構の発見から，当時の人々が食事を作ったり，石器を作ったりするなどの日常生活を送る場として，この地を数千年にわたり断続的に利用していたことが分かりました。ところが，人々が住むための竪穴住居跡は見つかりませんでした。調査範囲の外に存在している可能性も考えられますが，志布志市内には竪穴住居跡がなく連穴土坑と集石遺構のみが見つかる遺跡が幾つかありますので，これらの遺跡と同じような狩猟の際のキャンプ的な場所であった可能性が考えられます。狩猟のために移動しながらこの地に立ち寄り，様々な活動を行っていたのでしょう。

○東九州地域との関わりをもつ土器や石器の発見

次五遺跡では，大分県や宮崎県を中心とする東九州地域との関係を示す土器や石器が見つかりました。その一つは，大分県を中心とする地域で多く認められる，模様のない土器（無文土器）です。胎土や器壁の厚さなどの特徴が在来土器のものではないことから，大分県付近で作られて，持ち込まれたと考えられます。

次に，短軸打欠石錘と呼ばれる石器です（図４）。この石器は，礫の短軸上の両端に打ち欠きによるえぐりを作り出すもので，漁網などのおもりとして使用されました。早期の短軸打欠石錘は中頃（約9,500年前頃）に認められるようになります。宮崎県全域そして鹿児島県内では志布志市を中心とした志布志湾北岸域で見つかっており，地域的に限られた石器の可能性が考えられます。次五遺跡では最大幅３cm前後のかなり小さなものも出土しており，漁網用以外に編物用のおもりとして使用された可能性もあります。

このほか，早期前半（約10,500年頃）の宮崎県南部を中心に多く認められる，札ノ元Ⅶ類土器と呼んでいる地域性の強い土器も出土しています。

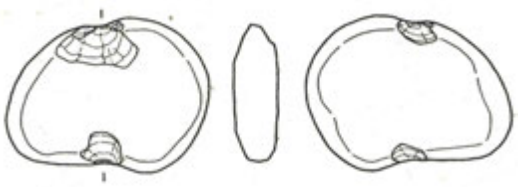


図4　短軸打欠石錘

写真4　縄文早期の落とし穴断面

〇落とし穴の発見

調査範囲の最も西側（Ｂ～Ｄ－20・21区）の薩摩火山灰層上面において，落とし穴が４基見つかりました。傾斜地で見つかっていることから，動物が台地の下から上がってくるためのけもの道に造られたと考えられます。これらの落とし穴が造られた時期は，人間がこの場所を日常生活活動の場として利用していなかった時期，つまり土器などが認められない早期後半の一時期であった可能性が高いと考えられます。次五遺跡は，早期後半の一時期には狩猟の場所であったと言えます。

（３）　縄文時代中期（約5,000～4,000年前頃）

〇落とし穴の発見

調査範囲の最も東側（Ｂ～Ｄ－３・４区）のアカホヤ火山灰層下位において，落とし穴が３基見つかりました。谷部で見つかっていることから，けもの道に造られたと考えられます。平面形状や大きさ，そして向きもほぼ同じで，さらに約10ｍの等間隔で見つかったことから，これらの落とし穴は同時に造られたと考えられます。平面形状が隅丸長方形であることから，縄文時代中期の落とし穴である可能性が高いです。次五遺跡は，縄文時代中期の一時期に狩猟の場所であったことが分かりました。

４　調査で分かったこと

〇二通りの遺跡利用方法

次五遺跡は，縄文時代早期前半にかけて，狩猟の際のキャンプ的な場所として利用され，食事や石器を作るなどの日常生活活動が行われていたことが分かりました。また，人々が移動しながら生活していた旧石器時代も縄文時代と同じような利用がなされていたと考えられます。この場所がシラス台地の端にあるため，台地下に湧き出る水を得やすかったことが大きな理由でしょう。一方，縄文時代早期後半と縄文時代中期には，人々が落とし穴を造ってこの地を狩猟の場所として利用していました。台地下へ続く谷や斜面に，けもの道があったためでしょう。

このように，次五遺跡は人々によって「日常生活の場」と「狩猟の場」という二通りの利用がなされていました。当時の人々が次五遺跡の地形や環境を上手に利用していたことがうかがえます。

〇志布志地域と東九州地域との深い関わり

旧石器時代の畦原型細石刃核，縄文時代早期の東九州地域の無文土器や札ノ元Ⅶ類土器そして短軸打欠石錘のように，次五遺跡からは大分県や宮崎県といった東九州地域との深い関わりがうかがえる資料が見つかっています。

志布志市は現在の行政区分では鹿児島県に属しますが，奈良時代から江戸時代にかけては日向国に属しており，明治４（1871）年の廃藩置県後も一時期都城県や宮崎県に属した歴史もあります。このように志布志地域は古くから日向地域を含む東九州地域との関わりが深い場所でした。

その深い関わりが古くは旧石器時代までさかのぼることが，今回の調査からも分かりました。志布志地域と東九州地域との深い関わりを再確認できたという調査成果が，大分～宮崎～鹿児島をつなぐ東九州自動車道の建設に伴う発掘調査で分かったことは，何らかの縁を感じさせます。

大隅半島の歴史(1)

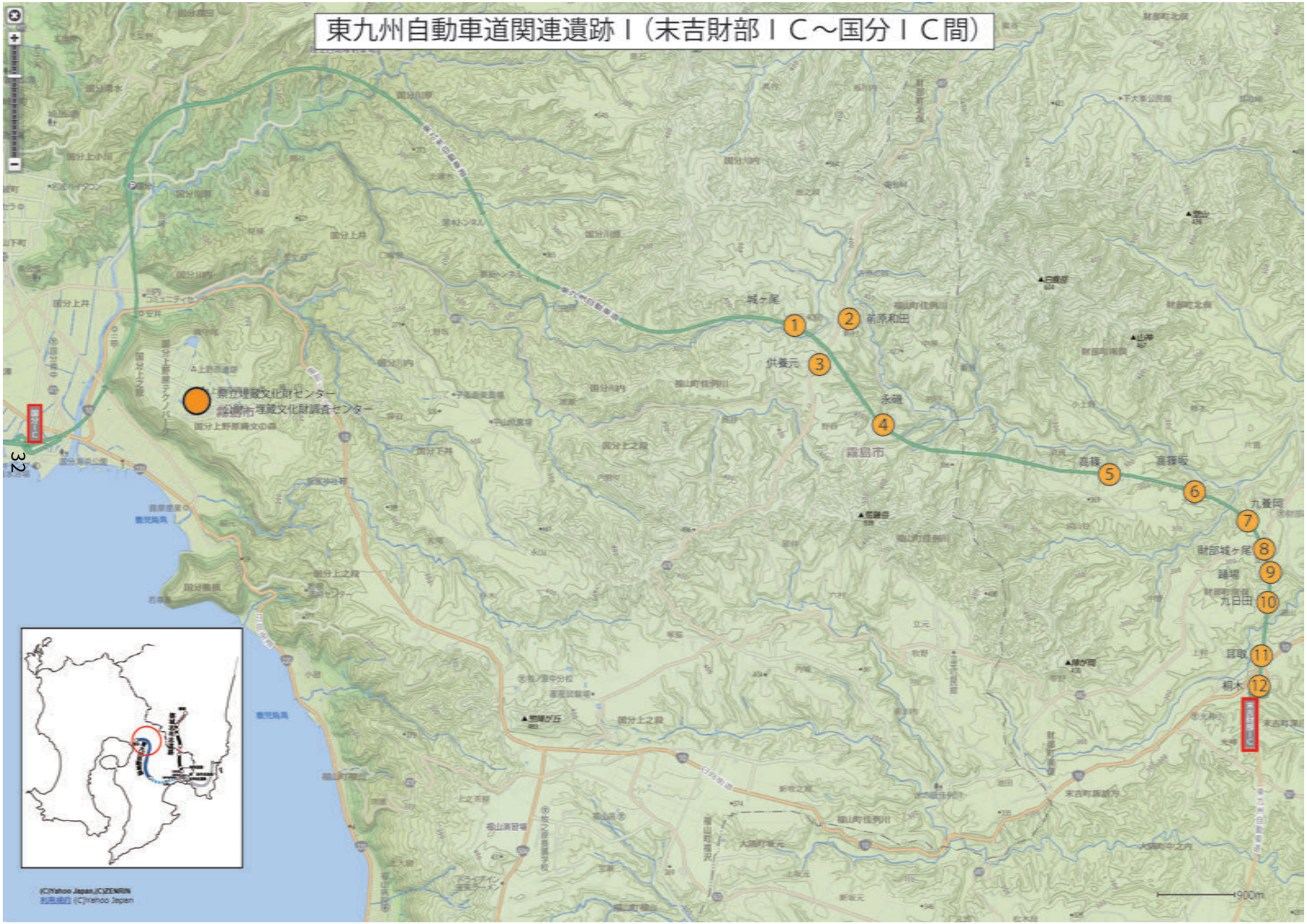
時代	西暦	年号		月	主要事項
飛鳥	682	白雉	十	7	隼人が朝貢し，大隅隼人と阿多隼人が朝廷で相撲を取る。
	687	持統	元	5	隼人大隅阿多魁師，各衆を率いて天武天皇の殯宮に誄を奉る。
	692		六	閏5	僧侶を遣わし，大隅・阿多に仏教を伝える。
奈良	713	和銅	六	4	日向国の肝坏・贈唹・大隅・姶羅の四郡を割き，はじめて大隅国を置く。
	716	霊亀	二	5	薩摩・大隅二国の隼人の朝貢が六年交替に改められる。
	717	養老	元	4	大隅・薩摩二国の隼人ら，朝貢し風俗歌舞を奏する。
	720		四	2	隼人が反乱して大隅守陽候史麻呂を殺害する。
				3	大伴旅人が征隼人大将軍となり，征討に下る。
	723		七	5	大隅・薩摩二国の隼人六二四人が朝貢する。
	729	天平	元	7	大隅の隼人らが調物を献ず。
			二	3	大隅・薩摩両国にいまだ班田を実施できず，旧来どおり墾田を許す。
	745		十七	11	大隅・薩摩両国の公廨を各四万束と定める。
	761	天平宝字	五	11	西海道史が大隅・薩摩など八国の船・兵士らを検定し，三年の田租を免じる。
	764		八	12	大隅・薩摩両国境に大噴火が起こり，鹿児島信爾村の海に三島が生じ，民家六二区と八十余人が埋没する。
	766	天平神護	二	6	日向・大隅・薩摩三国に大風が吹き，桑・麻に損害を出す。柵戸の調庸免除される。大隅国神造新島，震動やまず人民多く流亡する。
	769	神護景雲	三	9	僧道鏡は和気清麻呂を大隅に配流する。
	785	延暦	四	12	日向国の百姓が課役を避けるために大隅・薩摩両国内に逃げ入る。
	788		七	3	大隅国贈唹郡の曾乃峯の上に火炎があがり沙石を降らす。
平安	800		十九	12	大隅・薩摩両国の公廨を各四万束と定める。百姓の墾田を収めて口分田を授ける。
	806	大同	元	11	洪水・旱ばつ・疫病が続いたため、大隅・薩摩などの田租が一か年免除される。
	824	天長	元	9	多褹島をやめて大隅国に併合し、能満を熊毛に、益救を馭謨に合わせて四郡を二郡にする。
	1034	長元	七	3	高麗人が大隅国に漂着する。厚く慇労を加えて帰還させる。
	1087	寛治	元		この年、大隅正八幡宮執印僧行賢は父惟宗某が任国の大隅に下るのに従う。
	1110	天永	元	1	大隅正八幡宮執印僧行賢は吉田院を買得して、源為重に譲る。
	1121	保安	二	6	大隅正八幡宮政所は、建部頼清に禰寝院南俣村を領知させる。
鎌倉	1197	建久	八	6	薩・隅・日三州の図田帳ができる。
				12	島津忠久は薩摩・大隅両国御家人の奉行人に任ぜられる。
	1277	建治	三		この年、大隅正八幡宮執印僧行賢は父惟宗某が任国の大隅に下るのに従う。一遍上人が大隅正八幡宮に参詣する。
室町	1333	正慶	二	6	島津貞久は大隅国・日向国守護職に補任される。
		元弘	三		
	1336	建武	三	3	足利尊氏は島津貞久に命じ薩隅警固に当たらせる。
		延元	元		
	1350	観応	元	4	楡井頼仲・肝付兼重の連合軍が大隅を侵そうとする。島津貞久は重久篤兼に出勢を促す。
		正平	五		
	1353	文和	二	10	島津氏久は大隅の敵味方の交名を上進し、畠山方の攻勢を訴える。
		正平	八		
	1354	文和	三	2	島津貞久は大隅国・日向国守護職に補任される。楡井頼仲の兵を鹿屋一谷城に攻略し下大隅郡木谷城・大姶良城も陥れる。
		正平	九		
	1356	延文	元	8	足利義詮は島津貞久に薩摩・大隅守護、その他国内外の旧領・新恩地を安堵する。
		正平	十一		
	1363	貞治	二	4	島津貞久は島津師久（総州家）に薩摩国守護職以下を、島津氏久（奥州家）に大隅国守護職以下の所領を譲る。
		正平	十八		
	1376	永和	二	5	今川了俊は今川満範を薩隅日三州の大将とする。
		天授	二	閏7	了俊は禰寝氏に島津氏を討たせる。
				8	幕府は島津氏の大隅守護職と伊久の薩摩守護職を奪い了俊に与える。
	1378	永和	四	3	今川満範は禰寝久清を誘い、了俊は島津伊久に会戦を求める。
		天授	四		
	1379	康暦	元	11	禰寝久清が島津氏久の西俣大姶良城を攻める。
		天授	五		
	1380	康暦	二	7	今川了俊は禰寝久清に本邑を領させる。
		天授	六		
	1387	嘉慶	元	閏5	島津元久が大隅守護職を襲封し、清水城へ移る。
		元中	四	9	管領斯波義将は禰寝氏を今川和元につかせ、島津氏を討たせる。

大隅半島の歴史(2)

時代	西暦	年号		月	主要事項
	1394	応永	元	8	今川了俊は幕府に両島津討伐の教書を出させて、薩隅の地頭御家人に通達する。
	1400		七		この年、薩摩守護職島津伊久と大隅守護島津元久が不和になる。
	1404		十一	6	幕府は島津元久を日向・大隅の守護職に補する。
	1412		十九	9	島津久豊は伊東祐立と戦い末吉に敗退する。
	1413		二十	12	島津久豊が菱刈攻めのため留守中に、伊集院頼久が清水城を攻略する。
	1425		三十二	8	島津忠国は薩隅日三州の守護職に補任される。
	1432	永享	四		このころ，国一揆が激しく，島津忠国は鹿児島より末吉に移り，弟用久に守護職を代行させてこれを平定する。
	1471	文明	三	9	桜島黒神村に大噴火が起こる。
	1476		八	9	桜島大噴火する。大隅方東西二里余の海中を埋める。
	1506	永正	三		この年，肝付兼久が高山に拠り島津忠昌にそむく。
室町				8	忠昌は兼久を討つ。
	1510		七		このころより以降，薩隅日三国はおおいに乱れる。
	1542	天文	十一	閏3	島津忠広は肝付領蓬原を攻略し，北郷忠孝は肝付軍と鹿屋に戦う。
	1556	弘治	二	8	島津忠親が肝付氏の大崎城を陥れる。
	1558	永禄	元	2	肝付氏が北郷時久を討つ。
				10	肝付兼続は志布志を攻め島津忠親に撃退される。
	1562		五	2	伊東義祐は肝付兼続とともに島津忠親を破り，飫肥・志布志を分領する。
				9	菱刈隆秋が島津氏に帰服して横川城を与えられる。
	1569		十二	8	島津貴久・義久は大口城を攻める。新納忠元が大口地頭となる。
	1571	元亀	二	11	肝付氏の兵船が鹿児島を襲う。
	1573	天正	元	1	肝付軍が末吉を攻める。
				3	島津義久が肝付氏を討つ。
安土	1574		二	2	伊知地重興・肝付兼亮が島津氏に降る。
・	1581		九	2	島津義久は根占湊小鷹丸に琉球渡海の朱印を与える。
桃山	1587		十五	5	豊臣秀吉が入薩。義久は剃髪して龍伯と号し，川内泰平寺で秀吉と会見する。秀吉は義久に薩摩国を，義弘に大隅国を安堵する。
	1594	文禄	三	7	石田三成は検地の命を受け，大音新介を総奉行とし三州に遣わす。
				9	三州検地を大口よりはじめ，翌年二月に終わる。
	1690	元禄	三	6	霧島山噴火し，降灰数日に及ぶ。
江戸	1716	享保	元	9	霧島山爆発，12月再噴出し降灰は近傍の田畑を埋没する。
	1779	安永	八	10	桜島噴火，死者150人。
明治	1873	明治	六	1	都城県を廃し，大隅国を鹿児島県に編入し，日向国をもって宮崎県を置く。
	1896		二十九	4	南諸県郡を大隅国囎唹郡に併合。
	1914	大正	三	1	桜島が大爆発する。
大正	1915		四	7	大隅鉄道高須～鹿屋間開通。
	1923		十二	12	大隅鉄道古江～串良間に延長。
	1936	昭和	十一	4	鹿屋に海軍航空隊が発足。
	1937		十二	12	国鉄宮之城線・山野線が全通する。
	1943		十八	7	串良・溝辺・鹸娃・加世田に飛行場着工。
	1945		二十	9	米海兵隊が鹿屋に進駐。
	1957		三十二	12	笠野原畑地灌漑申請，反対運動も起こる。
	1967		四十二	3	高隈ダムが竣工，笠野原地区に疎水開始。
	1970		四十五	2	内之浦から国産衛星第一号が誕生。
昭和	1971		四十六	12	大隅開発計画の試案発表。
	1972		四十七	9	国鉄大隅線開通。
	1979		五十四	10	日豊本線鹿児島～南宮崎間の電化完工。
	1980		五十五	12	県，新大隅開発計画を正式決定。
	1983		五十八	4	菱刈鉱山が開坑。
	1984		五十九	4	国立鹿屋体育大学開校。
	1987		六十二	1	宮之城線廃止。
				3	大隅線，志布志線廃止。
				12	国分隼人のテクノポリス地域に県工業試験場オープン。
平成	1994	平成	六	5	鹿屋市に県アジア・太平洋農村研修センター開設。

【参考】
・「鹿児島県風土記」 旺文社 1995年
・「鹿児島県の歴史」 原口泉・永山修一・日隈正守・松尾千歳・皆村武一 山川出版社 1999年

東九州自動車道関連遺跡Ⅰ（末吉財部ⅠC～国分ⅠC間）



第１表　　末吉財部ＩＣ～国分IC間の遺跡

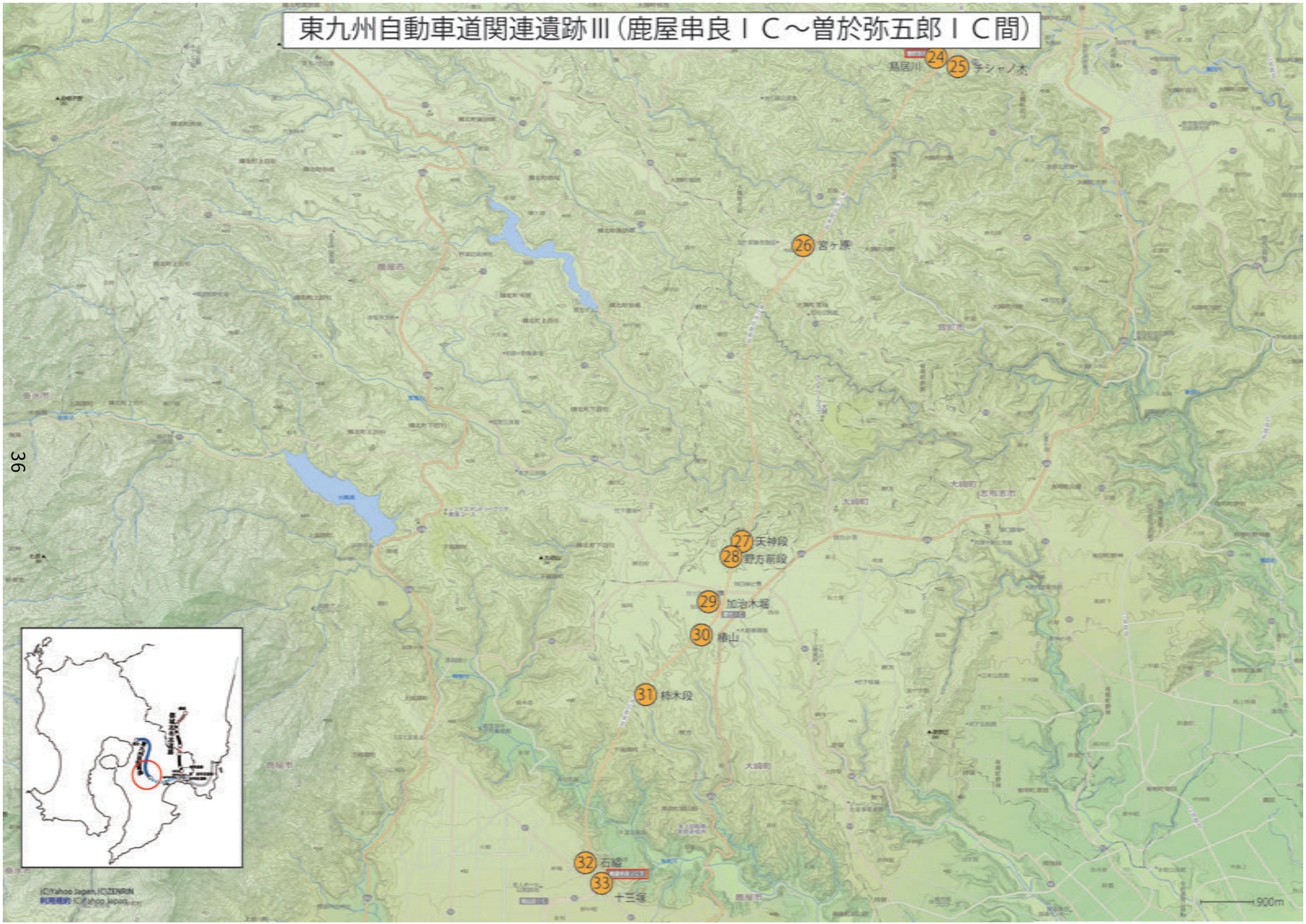
番号	遺跡名	所在地・立地	調査年度	整理・報告書	遺跡の概要		
					時代	主な遺構	主な遺物
1	城ヶ尾	霧島市福山町佳例川	H 10 年度 H 11 年度 終了	H 14 年度 終了	旧石器	土坑　礫群	三稜尖頭器，ナイフ形石器
					縄文草創期		
					縄文早期	土坑，集石，土器埋設遺構	前平式土器，吉田式土器，石坂式土器，塞ノ神式土器
					縄文前期	土坑	
					縄文中期末	土坑	石鏃，磨石，石皿等
					縄文晩期		
					古墳	住居跡	成川式土器
2	前原和田	霧島市福山町嘉例川字前原和田・和田前	H 10 年度 H 11 年度 H 12 年度 終了	H 13 年度 終了	旧石器	礫群22基（ⅩⅥ層18基・ⅩⅢ層4基）	ナイフ形石器，台形石器，ハンマーストーン，三稜尖頭器
					縄文草創期	落とし穴状遺構2基	石鏃，土器片
					縄文早期	落とし穴状遺構1基，集石2基	石鏃，石斧，吉田式土器，押型文土器，撚糸文土器，塞ノ神式土器
					縄文中期		石鏃，磨石，春日式土器
					縄文後・晩期		精製浅鉢，組織痕土器
					中世～近世	古道	須恵器
3	供養元	霧島市福山町佳例川	H 10 年度 H 11 年度 終了	H 13 年度 終了	縄文早期	集石遺構，落とし穴状遺構，溝状遺構	手向山式土器，平栫式土器，塞ノ神式土器，石鏃，石匙，スクレイパー
4	永磯	霧島市福山町佳例川字永磯	H10 年度 H11 年度 終了	H 14 年度 終了	旧石器	礫群5基 土坑3基	三稜尖頭器，台形石器，ナイフ形石器
					縄文草創期		石鏃，細石刃，土器片
					縄文早期	集石遺構16基，落とし穴状遺構26基	桑ノ丸3類土器，押型文土器，下剥峰式土器，塞ノ神式土器，石鏃，石斧，磨石，石皿
					縄文前・中期	落とし穴状遺構12基	石鏃，スクレイパー，石皿
					縄文後・晩期	落とし穴状遺構2基	石鏃，スクレイパー，石皿
					古代～近世	近代土坑1基，溝状遺構	
5	高篠	曽於市財部町南俣	H 11 年度 H 12 年度 終了	H 15 年度 終了	縄文後期		石鏃，土器
					平安	掘立柱建物跡 柱穴 軽石集石遺構 焼土 土坑 道状遺構 畝状遺構 落とし穴	土師器（杯，碗），黒色土器，墨書土器，須恵器（壺，甕），焼塩土器，石帯，銅環，帯金具，紡錘車，土錘，羽口，鉄滓，刀子
6	高篠坂	曽於市財部町南俣高篠坂	H 11 年度 H 12 年度 終了	H 14 年度 終了	縄文早期	集石	岩本式土器，吉田式土器，石坂式土器，手向山式土器，石鏃，石匙，石斧，石核，敲石，磨石，石皿
7	九養岡	曽於市財部町南俣	H 11 年度 終了	H 15 年度 終了	旧石器	礫群	三稜尖頭器，ナイフ形石器
					縄文早期	土坑	下剥峯式土器，手向山式土器，塞ノ神式土器
					縄文前期	土坑	轟式土器
					縄文後期		中岳Ⅱ式土器
					縄文晩期		黒川式土器
					古代	古道，土坑	土師器
8	財部城ヶ尾	曽於市財部町南俣	H 11 年度 終了	H 16 年度 終了	縄文早期	集石，土坑	押型文土器，手向山式土器，
					縄文中期	土坑	阿高式土器
					縄文後期		中岳Ⅱ式土器，出水式土器
					縄文晩期	土坑	黒川式土器
					古代	火葬墓，掘立柱建物跡　焼土，土坑	土師器，須恵器，鉄製品
9	踊場	曽於市財部町南俣	H 12 年度 終了	H 15 年度 終了	縄文早期	土坑3基，集石4基	押型文土器，下剥峯式土器，手向山式土器，平栫式土器，塞ノ神式土器，石鏃，磨石/敲石，石皿etc
					縄文後期		岩崎下層式土器，阿高Ⅲ類土器，岩崎上層式土器，綾式土器
					縄文晩期	集石1基	入佐式土器，黒川式土器，石鏃，石製垂飾品，石匙，石斧，石皿，磨石/敲石etc
					古代	掘立柱建物跡7棟，焼土5カ所，土坑5基，古道6条，軽石集石1基，礫集石2基	土師器（坏，高台付き坏，黒色，墨書土器，甕，紡錘車），焼塩壺，甑，猿面硯，須恵器（坏，甕，壺）鉄製品，鉄滓
					中世	畠跡	
10	九日田	曽於市財部町南俣	H 8 年度 終了	H 13 年度 終了	縄文早期	集石	石坂式系土器，押型文土器，石鏃
					縄文晩期		深鉢，浅鉢，石鏃
					古代	土坑，ピット群	土師器
11	耳取	曽於市末吉町諏訪方字耳取	H 11 年度 H 12 年度 終了	H 16 年度 終了	旧石器	礫群	角錐状石器，ナイフ形石器，剥片尖頭器，台形石器他
					縄文草創期	土坑，集石	隆帯文土器，隆起線文土器，石鏃，丸鑿型石斧
					縄文早期	住居跡，土坑，落し穴状遺構，集石	前平式土器，吉田式土器，石坂式土器，押型文土器，石鏃
					縄文中後期	落し穴状遺構，土坑，集石	条痕文系土器他
12	桐木	曽於市末吉町諏訪方字桐木	H 8 年度 H 9 年度 H 10 年度 H 11 年度 H 12 年度 終了	H 16 年度 終了	縄文晩期	住居跡，土坑	入佐式土器，組織痕土器他
					古墳	住居跡	成川式土器他
					古代～中世	掘立柱，古道	土師器，須恵器

東九州自動車道関連遺跡Ⅱ（曽於弥五郎ＩＣ～末吉財部ＩＣ間）

第２表　　曽於弥五郎IC～末吉財部ＩＣ間の遺跡

番号	遺跡名	所在地・立地	調査年度	整理・報告書	遺跡の概要		
					時代	主な遺構	主な遺物
13	関山西	曽於市末吉町諏訪方字関山西	H 17 年度 終了	H 19 年度 終了	縄文早期	集石，土坑	前平式土器，石坂式土器，塞ノ神式土器，石鏃，磨石他
					縄文晩期	土坑	入佐式土器，石鏃，磨石他
					弥生		弥生前期土器，磨製石鏃他
					古墳		成川式土器，鉄鏃他
					古代～中世	掘立柱建物跡，溝状遺構，土坑墓，畝状遺構	土師器，須恵器，青磁，白磁，羽口，擂鉢，刀子，鉄器他
		関山西遺跡は主に縄文時代早期，晩期，古代～中世の遺構，遺物が発見された。特に縄文時代早期の集石は26基検出され，壺形土器や石鏃等多くの土器や石器が出土した。また，古代～中世では掘立柱建物跡や溝状遺構，畝状遺構等が検出された。掘立柱建物跡は中央に焼土跡が検出され，軽石や鉄器等の遺物も出土した。溝状遺構は1471年桜島噴出の軽石に覆われており，一部底部に硬化面や杭跡が検出された。					
14	関山	曽於市末吉町諏訪方905番地	H 17 年度 終了	H 19 年度 終了	旧石器	礫群	ナイフ形石器，細石刃
					縄文時代	集石，落とし穴，竪穴住居跡	吉田式，変形撚糸文，岩崎式，入佐式土器，石鏃他
					古代～中世	溝状遺構	土師器
					近世	掘立柱建物跡	薩摩焼，染付
		関山遺跡は，旧石器時代から近世にかけての複合遺跡である。特に，縄文時代早期の落とし穴が１９基検出されたことと，赤色顔料の詰まった縄文時代早期の変形撚糸文土器が入れ子状で出土したことは，今後の研究に貴重な資料となると思われる。					
15	唐尾	曽於市末吉町諏訪方938番	H 16 年度 終了	H 19 年度 終了	縄文早期	集石	塞ノ神式土器
					縄文中期	落とし穴	春日式土器
					縄文晩期	竪穴住居	入佐式土器
					古代	掘立柱建物跡	掘立柱建物跡
		唐尾遺跡では，縄文時代早期，中期，晩期，古代の遺構・遺物が検出された。特に中期の落とし穴が８基，晩期の入佐式土器を伴った竪穴住居跡１基が検出されている。また，古代では，焼土跡を伴う掘立柱建物跡が検出された。					
16	西原段Ⅰ	曽於市大隅町仲之内	H 19 年度 H 21 年度 終了	H 20 年度 H 21 年度 終了	旧石器	礫群	剥片
					縄文早期	土坑	押型文土器，石鏃，石皿，磨石
					縄文時代	集石，土坑	
					弥生		中津野式土器
					古代～中世	道路状遺構，落とし穴	
		西原段Ⅰ遺跡では，旧石器時代から縄文時代の早期，中・後期，晩期，古代～中世と長期に及ぶ遺構や遺物が発見されている。特に注目される遺構は，縄文時代早期の集石遺構，古代から中世の硬化面を伴う道路状遺構，落とし穴などが挙げられる。遺物については組織痕文土器，中津野式土器，土師器，石鏃，石皿，磨石・敲石等が出土した。					
17	野鹿倉	曽於市大隅町仲之内字野鹿倉	H 19 年度 終了	H 20 年度 終了	旧石器		石核，剥片
					縄文	集石	
		野鹿倉遺跡では主に旧石器時代の遺物，縄文時代早期の遺構・遺物が発見された。特に，縄文時代早期の集石遺構が12基検出されたことが注目される。					
18	建山	曽於市大隅町岩川字屋敷団	H 18 年度 H 21年度 終了	H 20 年度 H 21 年度 終了	旧石器	礫群，ブロックなど	
					縄文早期	竪穴住居跡，集石，落とし穴，土坑	加栗山式土器，桑ノ丸式土器，手向山式土器，変形撚糸文土器，石鏃，磨石他
					縄文前期		轟式土器，曽畑式土器
					縄文中期	落とし穴	石鏃，石皿
					古代～中世	掘立柱建物跡，溝状遺構，軽石集積	土師器，土師甕他
		建山遺跡では主に旧石器時代から中世までの遺構・遺物が発見された。特に注目される遺構は，後期旧石器時代細石刃文化期のブロック，縄文時代早期の集石遺構，古代～中世の掘立柱建物跡や溝状遺構などが挙げられる。遺物は，後期旧石器時代細石刃文化期の細石刃，細石刃核，縄文時代早期の変形撚糸文土器，手向山式土器，古代～中世の土師器などが挙げられる。台地の谷頭に位置し，縄文時代早期前葉の竪穴住居跡が２軒発見された。縄文時代中期の落とし穴も検出され，時代により遺跡の役割が異なっていたことも明らかとなった。					
19	狩俣	曽於市大隅町岩川2154番地	H 17 年度 H 18 年度 終了	H 21 年度 終了	縄文早期	集石遺構	石坂式土器，手向山式土器
					縄文中～晩期	落し穴	宮ヶ迫式土器，黒川式土器
					古代・中世	畝状遺構，溝跡，古道	土師器，須恵器，墨書土器
		狩俣遺跡では，縄文時代早期，中～晩期，古代，中世，近世の遺構，遺物が発見された。縄文時代早期の集石遺構は２５基検出され，その周辺からは多くの遺物が出土した。特に中世の畝状遺構は１４７１年桜島噴出の軽石に覆われており，削平を受けていない台地部や斜面部などほぼ遺跡全体で検出され，その分布が明らかとなった。					
20	高古塚	曽於市大隅町岩川2433-4他	H 18 年度 終了	H 19 年度 終了	縄文早期	落し穴，集石	岩本式土器，前平式土器，吉田式土器，石坂式土器，条痕文円筒土器，下剥峯式土器，押形文土器
					縄文中期	落し穴	
					縄文後～晩期		綾式土器，黒川式土器
					古　代	掘立柱建物跡	土師器，須恵器
		高古塚遺跡では，縄文時代早期，中期，晩期，古代の遺構遺物が検出された。特に早期の落とし穴が３基，集石が１３基検出され当時の土地利用のあり方が注目される。また，早期前葉の土器が出土している。古代では焼土跡を伴い同一地点で主軸を変えて立て替えを行った掘立柱建物跡が検出された。					
21	定塚	曽於市大隅町岩川	H 17 年度 終了	H 21 年度 終了	旧石器		ナイフ形石器，台形石器，スクレイパー，ハンマーストーン
					縄　文	竪穴住居状遺構，集石遺構，落とし穴	前平式土器，志風頭式土器，加栗山式土器，小牧３Ａ式タイプ，吉田式土器，石坂式土器，下剥峯式土器，塞ノ神式土器，轟式土器，阿高式土器，指宿式土器，黒川式土器，石鏃，打製石斧，磨製石斧，楔形石器，異形石器，礫器，石皿，磨石，敲石
		定塚遺跡は，旧石器時代から縄文時代までの遺跡である。特に，縄文時代早期の竪穴住居状遺構97基をはじめ，集石遺構や土坑等多くの遺構が検出された。また，遺構内の遺物も多数出土しており縄文時代草創期の栫ノ原遺跡と縄文時代早期前葉の前原遺跡・加栗山遺跡・上野原遺跡をつなぐ時期の集落として貴重な遺跡である。					
22	稲村	曽於市大隅町岩川	H 17 年度 終了	H 21 年度 終了	縄　文		前平式土器，吉田式土器，塞ノ神式土器，轟式系土器，黒川式土器，石鏃，磨製石斧，礫器，磨石
					古代～近世	畝状遺構，溝状遺構 硬化面を伴う道路状遺構	
		稲村遺跡は，縄文時代と古代～近世の遺跡である。特に，古代～近世にかけての硬化面を伴う道路状遺構や畝状遺構は，当該期の生活の様子を知るうえで貴重な資料となる。					
23	中之迫	曽於市大隅町岩川2916-5他	H 16 年度 終了	H 19 年度 終了	縄文早期，前期，晩期		岩本式土器，吉田式土器，石坂式土器，下剥峯式土器，無文土器，轟式土器，黒川式土器
		中之迫遺跡では，縄文時代早期，前期，晩期の遺物が出土している。					

東九州自動車道関連遺跡Ⅲ（鹿屋串良ＩＣ～曽於弥五郎ＩＣ間）



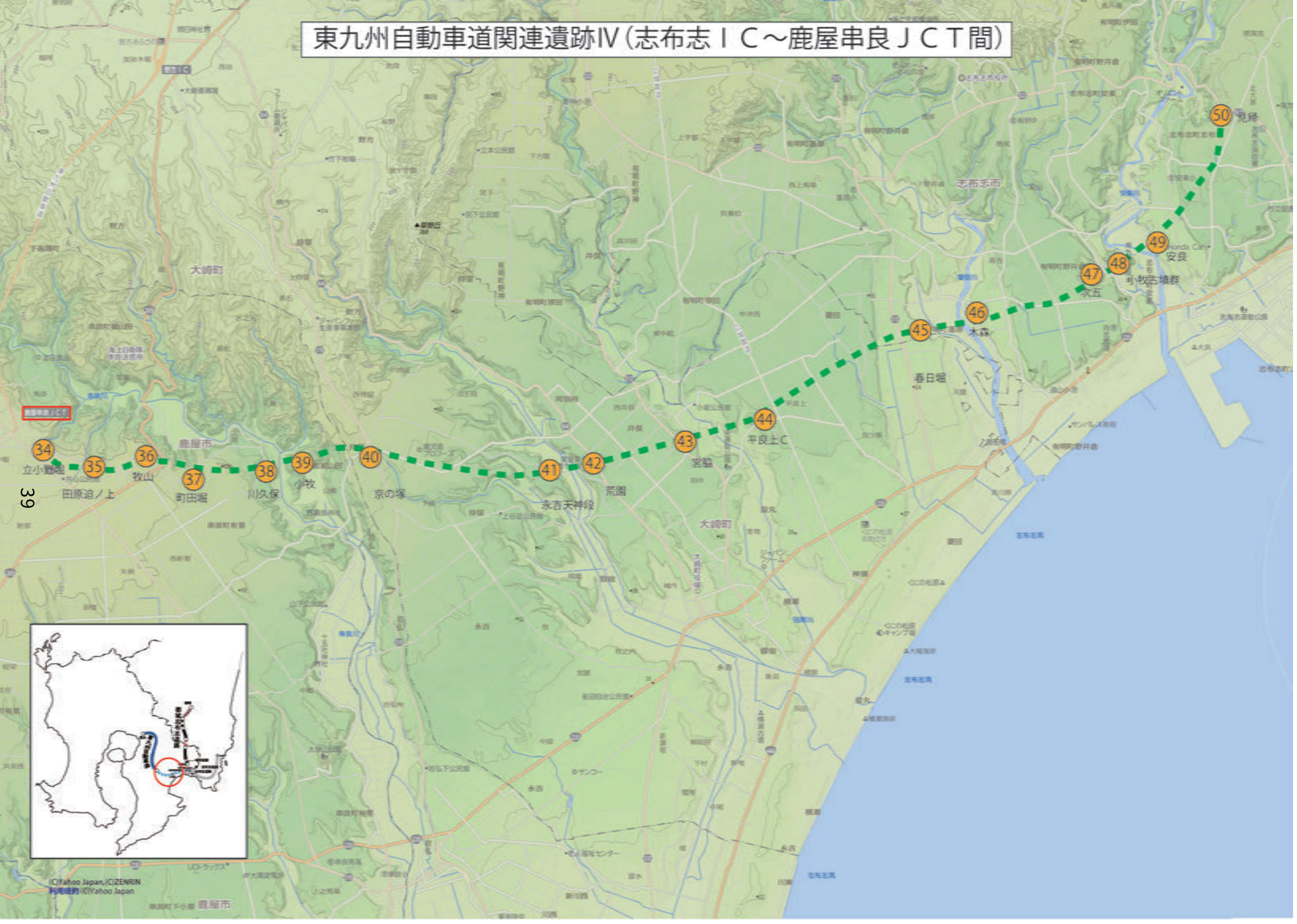
第３表　鹿屋串良ＩＣ～曽於弥五郎ＩＣ間の遺跡

番号	遺跡名	所在地・立地	調査年度	整理・報告書	遺跡の概要		
					時代	主な遺構	主な遺物
24	鳥居川	曽於市大隅町岩川鳥居川	H 17 年度 終了	H 19 年度 終了	縄文早期・晩期		押型文，塞ノ神式，黒川式土器，石鏃他
		鳥居川遺跡では，遺構は確認されなかったが，縄文時代晩期の土器が，深鉢と浅鉢がセットで出土している。					
25	チシャノ木	曽於市大隅町岩川チシャノ木	H 18 年度 終了	H 19 年度 終了	旧石器		削器
					縄文時代	集石，落とし穴，土坑	押型文，西平式，黒川式土器，石鏃他
					古代～中世	落し穴	陶器，火打ち石
					近世	溝状遺構	軽石製品，寛永通宝
		チシャノ木遺跡は，関山遺跡と同じく旧石器時代から近世にかけての複合遺跡である。特に，縄文時代晩期の遺物が主体を占め，組織痕土器も出土している。また，古代～中世の細長い箱形をした落とし穴も検出されており，注目される。					
26	宮ヶ原	曽於市大隅町	H 19 年度 H 20 年度 H 22 年度 終了	H 23 年度 終了	縄文早期	落とし穴3基 土坑3基 集石遺構4基	前平式土器，石坂式土器，下剥峯式土器，桑ノ丸式土器，押型文式土器，妙見・天道ヶ尾式土器，平栫式土器，塞ノ神式土器，石鏃，磨製石斧，石匙，削器，掻器，楔形石器，異形石器，石核，敲石，石皿
					縄文中・後期	落とし穴4基 土坑18基 集石遺構3基	深浦式土器，岩崎上層式土器，鐘崎式土器，中岳Ⅱ式土器，石鏃，ドリル，楔形石器，石匙，削器，敲石
					弥生時代		下城式土器，入来Ⅱ式土器
					近世～現代	道跡1条（数層の硬化面）	陶磁器，煙管，貨幣等
		本遺跡は，発掘調査の結果，旧石器時代，縄文時代，弥生時代，近世～現代の遺構・遺物が確認された。特に縄文時代早期後葉の妙見式土器，天道ヶ尾式土器，平栫式土器に比定できる土器が多数出土していることから，この時期の土器製作技法の変遷を解明していくのに貴重な資料となるものと考える。また。県道下から検出された近世から現代にかけての硬化面は，同じ場所で少しずつ大きさを変えながら改築を繰り返し行われたことがうかがえ，近世から現代にかけての人々の生活を解明していくひとつの手がかりになるものと考える。					
27	天神段	曽於郡大崎町	H 19 年度 H 20 年度 H 21 年度 H 22 年度 H 23 年度 H 24 年度 H 25 年度 終了	H 26 年度 H 27 年度 H 28 年度 H 29 年度 終了	ナイフ形石器文化期 細石刃文化期	礫群	ナイフ形石器，台形石器，三稜尖頭器，ハンマー類，チップ，フレイク
					縄文草創期		土器片，石鏃
					縄文早期前半	竪穴住居状遺構9基 落とし穴5基 連穴土坑32基 集石遺構313基 土坑123基 土器埋設遺構2基 石器埋設遺構1基	岩本式土器，前平式土器，志風頭式土器，加栗山式土器 吉田式土器，石坂式土器，石鏃，石斧，礫器，磨石，石皿，軽石製品，炭化種子，炭化鱗茎
					縄文早期後半		下剥峯式土器，辻タイプ，桑ノ丸式土器，押型文土器，中原式土器，手向山式土器，妙見・天道ヶ尾式土器，平栫式土器，塞ノ神式土器，苦浜式土器，条痕文系土器，耳栓状土製品，円盤状土製品，石鏃，石匙，楔形石器，石斧，磨石，石皿，礫器，異形石器，軽石製品
					縄文前・中期	落とし穴13基，土坑14期，集石遺構19基，石斧集積遺構1基	曽畑式土器，深浦式土器，春日式土器，条痕文土器，石鏃，石匙，石斧，石皿，磨石，敲石，石剣
					縄文晩期	竪穴住居跡1軒，落とし穴16基，土坑139基，集石遺構3基	入佐式土器，黒川式土器，石鏃，石斧，磨石，敲石，石皿，石刀，軽石製品
					弥生 （Ⅲ・Ⅳ層）	竪穴住居跡２軒	刻目突帯文土器，入来式土器
					古代 （Ⅲ層）	掘立柱建物跡７棟，竪穴状遺構２基，土坑90基，ピット660基，炉跡１か所，焼土跡１か所，土器集中２か所	土師器（甕，坏，埦），墨書土器，刻書土器，須恵器，黒色土器，焼塩土器，紡錘車，鍛造剥片
					中世 （Ⅲ層）	掘立柱建物跡49棟，土坑墓８基，土坑113基，ピット765基，溝・古道66条，鍛冶関連遺構１基	青磁，白磁，青白磁，土師器，東播系須恵器，黒色土器，陶器，瓦器，滑石製石鍋，滑石製品，鏡，鉄製品，鉄片，古銭
					近世 （Ⅱ層）	土坑７基，ピット１基，畝状遺構１か所	陶器，磁器，煙管（キセル）
		本遺跡は，古墳時代を除く旧石器時代～近世の複合遺跡で，各時代とも貴重な遺構や遺物が確認されている。Ⅴ層出土の石剣は，縄文時代前期の曽畑式土器に伴うと判断したもので，西日本最古の発見例として注目されている。 遺構では，縄文時代後期末～晩期初頭の入佐式土器が廃棄された竪穴住居跡が遺跡の北東部で１軒発見されている。　弥生時代～近世においては，特に，中世の遺構や遺物が注目できる。中でも，中世初頭の湖州鏡や松喰鶴鏡などの鏡，古銭，鉄鏃や和鉄などの鉄製品，青磁，白磁，滑石製石鍋や小壺等貿・量とも豊富な副葬品をもつ土坑墓や掘立柱建物跡は，ある程度高位の一族を中心とした集落の様相が窺え，当時の地域及びその周辺の歴史を紐解く上で貴重かつ注目される資料である。					
28	野方前段	曽於郡大崎町野方前段	H 19 年度 H 20 年度 終了	H 21 年度 H 23 年度 終了	縄文	集石遺構６，炭化木，落とし穴５，土坑３	石坂式土器，平栫式土器，塞ノ神式土器，苦浜式土器，右京西式土器，石鏃，石匙，磨石，敲石，石皿，南福寺式土器，黒川式土器，石製垂飾品
					弥生	土坑１	吉ヶ崎式土器
					古代～中世	溝状遺構，古道跡，土坑14	須恵器
					近世	土坑25	染付，薩摩焼
		縄文時代早期・前期・中期・晩期，弥生時代中期，古代，中・近世の遺跡である。遺構は縄文時代早期の集石遺構６基と，古代の可能性のある溝状遺構を１条検出している。					
29	加治木堀	曽於郡大崎町野方加治木堀	H 19 年度 終了	H 21 年度 終了	縄文中期	落とし穴７	土器，石鏃，楔形石器，敲石
					弥生中期		山ノ口式土器
					古墳		成川式土器，鉄鏃
					古代～中世	溝状遺構，古道跡，畝状遺構，土坑１	白磁，青磁，軽石製品
		縄文時代中期と弥生時代中期，古墳時代及び中世の遺跡である。縄文時代中期の遺構として円形の落とし穴を７基検出している。落とし穴には桜島起源Ｐ７（４．７～５千年前）火山灰が埋土上部に混入し，２列に配置されていた。 弥生時代は山ノ口式土器，古墳時代は成川式土器と鉄鏃が出土している。中世遺構は畠境，古道跡を検出し，畠は長方形で畝跡も検出している。					
30	椿山	曽於郡大崎町野方椿山	H 20 年度 終了	H 21 年度 終了	縄文	落とし穴	岩崎下層式土器，岩崎上層式土器，石匙，石鏃
					弥生中期		吉ヶ崎式土器
					古代～中世	溝状遺構，古道跡	
		縄文時代中・後期の土器と落とし穴，弥生時代中期の土器，古代～中世の溝状遺構・古道跡を検出している。					

31	柿木段	曽於郡大崎町立小野字柿木段	H 20 年度 終了	H 21 年度 終了	縄文晩期	落とし穴，石斧埋納遺構，土坑	黒川式土器，石鏃，石斧
					弥　生		山ノ口式土器
					古墳時代		成川式土器，鉄鏃
					古　代	カマド跡 溝状遺構，古道跡	土師器，須恵器
					中世～近世		青磁，白磁，染付，薩摩焼
		縄文時代晩期では土坑４基，落とし穴１基，石斧埋納遺構１基を検出している。古代は溝状遺構１９本，古道跡４６条，カマド遺構２基を検出している。					
32	石総	鹿屋市串良町細山田	H 20 年度 H 21 年度 終了 ※ 埋 文 セ ン ター調査	H 22 年度 終了	縄文早期	集石遺構，土坑	岩本式・前平式・志風頭式・石坂式・平栫式・ 貝殻条痕文・鎌石橋式・轟Ａ式土器，打製石鏃，磨石，敲石
					弥生時代	—	山ノ口式，須玖式土器
		縄文時代早期前半から早期末を中心とする遺跡。鎌石橋式土器が１個体と轟Ａ式土器が２個体出土し，両型式が同時期に存在した可能性を示唆する遺跡である。					
33	十三塚	鹿屋市串良町細山田	H 20 年度 H 21 年度 終了 ※ 埋 文 セ ン ター調査	H 22 年度 終了	縄文早期	—	石坂式土器
					縄文後期	—	凹線文・市来式・三万田式土器
					縄文晩期	—	黒川式土器
					弥生中期	竪穴住居跡，掘立柱建物跡，土坑	山ノ口式土器，土製勾玉，打製・磨製石鏃，棒状敲具，鉄鏃
					古墳時代	—	成川式土器
					中世～近世	道路状遺構	加治木銭
		弥生時代中期を中心とする遺跡。花弁形・方形・円形に分類された竪穴住居跡が発見された。出土遺物等から，王子遺跡（鹿屋市王子町）や前畑遺跡（同市郷之原町）等と同時期の集落跡と考えられている。また，集石遺構が竪穴住居跡内から発見されている。また，７号住居跡の埋土内から，松木薗遺跡（南さつま市金峰町）や永吉天神段遺跡（曽於郡大崎町）から出土した鉄鏃と類似する無茎の鉄鏃が出土した。					

MEMO

東九州自動車道関連遺跡Ⅳ（志布志ＩＣ～鹿屋串良ＪＣＴ間）



第４－１表　　志布志ＩＣ～鹿屋串良ＪＣＴ間の遺跡

番号	遺跡名	所在地・立地	調査年度	整理・報告書	遺跡の概要		
					時代	主な遺構	主な遺物
34	立小野堀	鹿屋市串良町細山田	H 22 年度 H 23 年度 H 24 年度 H 26 年度 調査中 ※ H 22～24 は 埋 文 セ ン ター調査	H 28 年度 終了	縄文前・中期	―	深浦式土器
					縄文後期	―	指宿式・西平式・市来式土器
					弥生中期	―	山ノ口式土器
					古　墳	地下式横穴墓，土坑墓，溝状遺構	成川式土器，須恵器，鉄器（刀・剣・槍・鉾・刀子・鏃等），青銅鈴，人骨
					時期不詳	溝状遺構	―
		縄文時代前期から古墳時代までの複合遺跡。特筆すべきは，古墳時代の地下式横穴墓が190 基発見されたことである。玄室内には鉄鏃や鉄剣等の鉄器，青銅製鈴等の副葬品と人骨が多数残っていたほか，墓周辺から多量の土器や須恵器が出土した。青銅製鈴をはじめ，これだけ多種多様な副葬品を伴った地下式横穴墓群の発見は，個別研究のみならず南九州の古墳時代墓制の様相全体を解明していく上で貴重な資料である。					
35	田原迫ノ上	鹿屋市串良町細山田	H 22 年度 H 23 年度 H 24 年度 H 25 年度 H 26 年度 終了 ※ H 22～24 は 埋 文 セ ン ター調査	H 26 年度 (1) H 28 年度 (2)　終了	縄文早期	竪穴住居跡，連穴土坑，集石遺構，落とし穴，土坑，石器製作跡	前平式・吉田式・倉園Ｂ式・石坂式・下剥峯式・辻タイプ・桑ノ丸式・中原式・押型文・手向山式・平栫式・塞ノ神式土器，石槍，石鏃，石匙，磨石，敲石，石皿，打製石斧
					縄文前期		曽畑式土器
					縄文後期	落とし穴，礫集積	指宿式・市来式土器，鐘崎式土器，石鏃，磨石
					縄文晩期	―	黒川式土器
					弥生中期	竪穴住居跡，大型建物跡，掘立柱建物跡，円形・方形周溝，土坑	山ノ口式・中溝式土器，擬凹線文系壺，土製勾玉，鉄器，磨製石鏃，石匙，砥石，敲石，台石
					古墳時代以降	溝状遺構，畝状遺構	成川式土器，須恵器，陶器，磁器，瓦器，土師器椀，薩摩焼
		縄文時代早期から弥生時代中期を中心とした複合遺跡。弥生時代中期では，ベッド状遺構を伴う方形や円形の大型竪穴住居跡，棟持柱をもつ掘立柱建物跡２棟を含む建物跡群，柱穴列や円形・方形の周溝など，大隅半島中央部での当時の集落の様相を知る上で貴重な遺跡である。また，大型建物跡の可能性が高い遺構の一部が現地に保存されたことは特筆される。このほか，縄文時代早期では竪穴住居跡 20 軒，連穴土坑 40 基など，集落を想定させる遺構が多数発見されていることも注目される。					
36	牧山	鹿屋市串良町細山田	H 25 年度 H 26 年度 H 27 年度 H 28 年度 H 29 年度 調査中	H 28 年度 （A地点１）作業中	旧石器	―	剥片
					縄文早期	竪穴住居跡，連穴土坑，土坑，集石遺構，　石器製作跡	吉田式・石坂式・下剥峯式・辻タイプ・桑ノ丸式・押型文土器，石鏃，石匙，スクレイパー，　磨石，剥片，チップ
					縄文前期	埋設土器（轟式）	轟式・条痕文土器
					縄文後期	土坑，落とし穴状遺構，埋設土器，石器 集中部	市来式・西平式・丸尾式・太郎迫式・三万田式・中岳Ⅱ式土器，打製・磨製石斧，磨石，剥片，石核，台石，石冠
					縄文晩期	土坑	入佐式・刻目突帯文土器
					弥生中期	竪穴住居跡，掘立柱建物跡，土坑	山ノ口式土器，打製・磨製石斧，磨製・打製石鏃，磨石，敲石，石皿，青銅鑿
					中・近世	古道跡	青磁，白磁，薩摩焼
		旧石器時代から中世にかけての複合遺跡。特に，縄文時代後期の建物跡を構成していた可能性のある柱穴群（300～400 個）が環状に発見されたのが注目される。また，同時期の複数の埋設土器と，石冠も１点出土している。					
37	町田堀	鹿屋市串良町細山田	H 24 年度 H 25 年度 H 27 年度 H 28 年度 終了	H 27 年度 H 29 年度 終了	縄文早期	集石遺構	中原式土器，下剥峯式土器，塞ノ神式土器，打製石斧，磨石
					縄文後期	竪穴住居跡，埋設土器，落とし穴，土坑，　石斧集積遺構	中岳Ⅱ式土器，石刀，打製・磨製石斧，石鏃，ヒスイ製垂飾，小玉，勾玉，管玉
					縄文晩期	―	入佐式土器，黒川式土器，刻目突帯文土器
					弥生中期	竪穴住居跡、，掘立柱建物跡，土坑	土製勾玉，刻目突帯文土器，入来式土器，山ノ口式土器，中津野式土器，磨製石鏃
					古　墳	竪穴建物跡，地下式 横穴墓，円形周溝墓，　溝状遺構、溝、土器破砕祭祀（空間）遺構	成川式土器（壺・高坏・坩），人骨，鉄剣，鉄 鏃，刀子，鉇，異形石器
					古 代以降および時代不詳	焼土跡，古道、掘立柱建物跡，道跡	土師器，須恵器
		標高90ｍの笠野原台地の北縁辺部に位置し，遺跡の北側と東側を串良川が蛇行して流れる。本遺跡は縄文時代早期から古代にかけての複合遺跡である。縄文時代早期は集石遺構が多く検出され，中原式土器や下剥峯式土器などが出土した。縄文時代後期は竪穴住居跡が７軒，埋設土器が15基検出され，住居跡からは中岳Ⅱ式土器が出土している。縄文時代晩期は遺構は検出されなかったが，遺物が少量出土した。弥生時代では，竪穴住居跡が２軒と掘立柱建物跡が１棟検出された。１軒の住居跡からは後期終末期に位置けられている中津野式土器が出土した。古墳時代では，南九州特有の地下式横穴墓が４基検出され，過年度の調査と併せて92基の地下式横穴墓となった。町田堀遺跡では南九州で初めて円形周溝を伴う例が確認され，大隅地域や南九州の古墳時代の在り方を考える上で貴重な資料といえる。時代は不詳であるが，掘立柱建物跡が５棟検出され，そのうちの４棟は２間×２間の総柱建物である。					
38	川久保	鹿屋市串良町細山田	H 26 年度 H 27 年度 H 28 年度 H 29 年度 調査中	作業中	旧石器	礫群	畝原型細石核，ナイフ形石器，剥片尖頭器
					縄文早期	集石遺構，土坑	前平式・加栗山式・吉田式・倉園Ｂ式・石坂式・下剥峯式・押型文・塞ノ神式土器，石鏃，打製石斧，石皿
					縄文前期	集石遺構	轟式・曽畑式土器，磨製石斧
					縄文晩期	集石遺構	黒川式・刻目突帯文土器
					弥生中期	竪穴建物跡	高橋式・下城式・山ノ口式土器
					古　墳	竪穴住居跡，鍛冶関連建物跡，竪穴状遺構，古道跡	笹貫式土器，鞴羽口，高坏脚転用鞴羽口，鉄鏃，鉄滓，勾玉，管玉
					古　代	掘立柱建物跡	須恵器，土師器
					中　世	掘立柱建物跡，古道跡，溝状遺構	青磁，白磁，瓦器椀
		旧石器時代から中世までの複合遺跡。特に古墳時代では，集落を構成する多数の竪穴建物跡や鍛冶関連遺構を伴う遺構が多数発見されているほか，専用の鞴の羽口も出土している。古墳時代の鉄製品の生産過程を明らかにする良好な資料である。					

第４－２表　志布志ＩＣ～鹿屋串良ＪＣＴ間の遺跡

番号	遺跡名	所在地・立地	調査年度	整理・報告書	遺跡の概要		
					時代	主な遺構	主な遺物
39	小牧	鹿屋市串良町細山田	H 27 年度 H 28 年度 H 29 年度 調査中	作業中	旧石器	—	細石刃，フレーク，チップ
					縄文早期	竪穴住居跡，連穴土坑，土坑，集石遺構	前平式・吉田式・石坂式，下剥峯式・平栫式・条痕文土器，石匙，磨石，石皿
					縄文前期	—	曽畑式土器，深浦式土器，磨石
					縄文後期	竪穴住居跡，伏甕，石皿立石遺構，石斧集積遺構，集石遺構，土坑	阿高式系・岩崎上層式・指宿式・市来式土器，石鏃，横刃型石器，打製石斧，磨石，石皿，大珠
					縄文晩期	—	入佐式・黒川式・刻目突帯文土器
					弥生中期	—	入来式・山ノ口式土器，砥石
					古墳	竪穴住居跡，礫集積，土器溜，土坑	東原式・辻堂原式・布留系土器，須恵器，鉄鏃，鉄製品，敲石，勾玉，軽石加工品
					古代	土坑	土師器（甕・坏），須恵器短頸壺
					中世以降	竪穴建物跡，掘立柱建物跡，溝状遺構，土坑，焼土域	土師器（坏），白磁，青磁，石鍋，鞴の羽口
		旧石器時代から中世までの複合遺跡。縄文時代早期前半から中葉の集落，後期の石皿遺構を伴う環状構造の集落とこれらに伴う遺物が特筆される。このほか，古墳時代の花弁形住居跡を伴う集落や中世の掘立柱建物跡群も発見されている。周辺の遺跡を含めて，串良川沿岸における人間活動の変遷を継続的に追うことができる遺跡である。					
40	京の塚	曽於郡大崎町西持留	H 25 年度 H 26 年度 H 27 年度 終了	作業中	縄文早期	集石遺構	石坂式・下剥峯式・中原式・押型文・塞ノ神式土器，打製石鏃，石核
					縄文前期～中期初頭	土坑，土器集中	曽畑式・深浦式・大歳山式・鷹島式・船元式土器，打製石鏃，石匙，石錐，スクレイパー，二次加工剥片，磨石，敲石，石皿，石核，フレーク
					近世以降	溝状遺構・古道	—
		縄文時代前期から中期初頭を中心に，縄文時代早期から近世まで含む複合遺跡。縄文中期では，200 基を超える土坑が検出されたほか，在地系土器の深浦式土器，近畿地方の大歳山式土器や鷹島式土器，瀬戸内地方の船元式土器などが出土し，当時の遠隔地との交流の一端が明らかとなった。					
41	永吉天神段	曽於郡大崎町永吉	H 24 年度 H 25 年度 H 26 年度 H 27 年度 終了 ※ H 24 年度は埋文センター調査	H 27 年度（第１地点）H 28 年度（第２地点１） H 29 年度（第2地点2） 終了	旧石器	ブロック，礫群	尖頭器，ナイフ形石器，台形石器，剥片
					縄文早期	集石遺構，土器埋設遺構	前平式・吉田式・加栗山式・手向山式・下剥峯式・押型文・平栫式・塞ノ神式・苦浜式・条痕文土器，石鏃，石匙，石斧，磨石，敲石，石皿，フレーク，チップ
					縄文前期	—	曽畑式土器
					縄文後期	—	岩崎上層式・北久根山式・中岳Ⅱ式土器
					縄文晩期	竪穴住居跡，落とし穴，土坑	入佐式・黒川式・刻目突帯文土器，管玉，打製石斧
					弥生	竪穴住居跡，円形周溝墓，土坑墓群，掘立柱建物跡，土坑	入来式・山ノ口式・黒髪式土器，鉄鏃，磨製石鏃，管玉
					古墳	竪穴住居跡，土坑	成川式土器，須恵器
					古代	掘立柱建物跡，土坑，柱穴	須恵器，土師器，内黒土師器・内赤土師器・白磁
					中世	掘立柱建物跡，土坑墓，地下式坑，火葬，竪穴建物跡，土坑（地下式坑・火葬土坑含む）溝状遺構，柱穴	白磁，青磁，土師器，瓦質土器，東播系須恵器，備前焼，常滑焼，湖州六花鏡，砥石，石塔，古銭，カムィヤキ・青白磁・染付・中国産陶器・石鍋・石臼・軽石製品・紡錘車・古銭・刀子・庖丁・鞴の羽口・土錘・円盤形土製品
					近世	近世墓，土坑墓，土坑，溝状遺構，柱穴	薩摩焼，染付，寛永通宝，石臼，備前系陶磁器，内野山焼・古銭
		旧石器時代から近世までの複合遺跡。弥生時代中期の円形周溝墓を頂点とする土坑墓群から，国内最古級に比定される鉄鏃が出土した。中世では白磁，青磁，瓦質土器，東播系須恵器等が多量に出土した。また，地下式坑と呼ばれる中～近世の大型土坑も確認された。					
42	荒園	曽於郡大崎町仮宿	H 24 年度 H 25 年度 H 26 年度 調査中 ※ H 24 年度は埋文センター調査	H 29 年度（第１地点）終了	旧石器	—	畦原型細石核・細石刃・水晶剥片
					縄文早期	素材剥片（頁岩）遺構，集石遺構，チップ，剥片集中区，土坑	前平式・吉田式・加栗山式・下剥峯式・押型文・手向山式・平栫式・塞ノ神式・苦浜式・条 痕文土器，壺形土器，石鏃，スクレイパー，石匙，耳栓，打製・磨製石斧，磨石，石皿，フレーク，チップ
					弥生中期	竪穴住居跡，土坑	吉ヶ崎式・山ノ口式土器，磨製石鏃未製品，砥石
					古墳	竪穴住居跡	東原式・笹貫式土器，須恵器，砥石
					古代以前	片薬研堀	—
					中世	掘立柱建物跡，土坑，溝状遺構，帯状硬化面	土師器，東播系須恵器，陶器，青磁，華南三彩
					近世以降	帯状硬化面	薩摩焼
		縄文時代早期から古墳時代を中心とする複合遺跡。遺構は，縄文時代早期の集石，弥生時代・古墳時代の竪穴住居跡，古代以前の片薬研堀，中世の掘立柱建物跡等が検出され，遺物は縄文時代早期の土器，石器，弥生時代・古墳時代の土器，土師器，陶器，磁器等が出土している。また，鬼界カルデラ噴火に伴う液状化現象の痕跡も確認されている。					
43	宮脇	曽於郡大崎町井俣	H 27 年度 調査中	—	旧石器	—	石核，円礫，フレーク，チップ
					縄文早期	集石遺構，土坑，土器 集中	加栗山式・小牧３Ａ・下剥峯式・桑ノ丸式・押型文・平栫式・塞ノ神式土器，打製石鏃，磨石，チップ
					近世	—	土瓶（薩摩焼），寛永通宝
		旧石器時代・縄文時代早期を中心とする遺跡。旧石器時代の遺構は検出されていないが，石器製作に関連すると考えられる石核，フレーク，チップ等が出土している。縄文時代早期の遺構は，集石，土坑，土器集中遺構，ピットが検出されている。遺物は，土器，石器等が約 10,000 点出土している。鬼界カルデラ噴火時に伴う２度の大地震により発生した液状化現象を示す噴砂層も確認されている。					
44	平良上Ｃ	曽於郡大崎町井俣	H 26 年度 H 27 年度 終了	H 28 年度 終了	縄文早期	竪穴住居跡，連穴土坑，集石遺構，埋設土器，チップ集中	岩本式土器，加栗山式土器，吉田式土器，石坂式土器，中原式土器，下剥峯式土器，桑ノ丸式土器，押型文土器，平栫式土器，塞ノ神式土器，苦浜式土器，石鏃，石斧，石核，石匙，削器，掻器，石錐，楔形石器，凹石，砥石，石錘，磨石，敲石，剥片，線刻礫等
		縄文時代早期を主体とし，多くの遺構・遺物が調査区全体から確認された。遺跡のほぼ中央に位置する丘を取り囲むように30基以上の集石が検出され，周辺からは遺物が多量に出土した。また，丘から東側へ緩やかに下るやや離れた平坦面からは竪穴住居跡や連穴土坑などが検出されたが，遺物の出土は少ない状況であった。このことから，当時の集落構造を紐解く上で良好な資料である。出土した土器は下剥峯式土器が圧倒的に多く，円筒形以外の器形の存在を窺わせる屈曲部を持つ土器片，上面観が直線的に伸びる口唇部を持つ土器片等が20点以上確認された。					

第４－３表　　志布志ＩＣ～鹿屋串良ＪＣＴ間の遺跡

番号	遺跡名	所在地・立地	調査年度	整理・報告書	遺跡の概要		
					時代	主な遺構	主な遺物
45	春日堀	志布志市有明町蓬原	H 26 年度 H 27 年度 H 28 年度 H 29 年度 H 30 年度 調査中	作業中	縄文早期	竪穴住居跡，連穴土坑，集石遺構，土坑，土器集中，炭化物集中，落とし穴	前平式・加栗山式・石坂式・下剥峯式・桑ノ丸式・押型文・手向山式・塞ノ神式土器，打製石鏃，打製・環状石斧，トロトロ石器，磨石，台石，石皿，砥石，穿孔円礫
					弥生	竪穴住居跡	山ノ口式土器
					古墳	溝状遺構，竪穴住居跡，土坑，棒状礫集積遺構	甕（笹貫式・東原式土器），壺，坩，高坏，須恵器高坏，棒状礫，磨製石鏃片
					古代～中世	焼土跡，竪穴建物跡，土坑墓，掘立柱建物跡，柵列	土師器（坏，甕，椀）
					近世	古道，溝状遺構，土坑，遺物集中	陶器，磁器
		縄文早期から中世を中心とする複合遺跡。遺構では縄文時代早期の竪穴住居跡，連穴土坑，集石遺構，落とし穴，弥生時代の竪穴住居跡，古代～中世の掘立柱建物跡が検出され，遺物では縄文時代早期の土器，打製石斧，環状石斧，トロトロ石器等をはじめ，弥生時代から中・近世の遺物が出土している。また鬼界カルデラ噴火に伴う噴砂跡も確認されている。					
46	木森	志布志市有明町野井倉	H 26 年度 調査中	作業中	縄文早期	集石遺構	前平式・加栗山式・吉田式・下剥峯式・押型文土器，石鏃，石匙，磨石・敲石
					中世	掘立柱建物跡	須恵器，土師器，青磁，白磁，滑石製石鍋片，鉄製品，鉄滓
		縄文時代早期と中世を中心とする複合遺跡。遺構では縄文時代早期の集石遺構，中世の掘立柱建物跡等が発見され，遺物では縄文時代早期の土器，石器，石匙，磨石・敲石のほか，須恵器，土師器，青磁，白磁，滑石製石鍋片，鉄製品等が出土している。					
47	次五	志布志市有明町野井倉	H 27 年度 終了	H 27 年度 終了	旧石器	—	畦原型細石刃核，細石刃，剥片
					縄文早期	落とし穴，連穴土坑，土坑，集石遺構，磨 石集積遺構	前平式・加栗山式・吉田式・札ノ元Ⅶ類・石坂式・中原Ｖ式・下剥峯式・桑ノ丸式・押型文・手向山式・塞ノ神Ｂ式土器，打製・磨製石鏃，石錘，局部磨製石斧
		旧石器時代から縄文時代早期を中心とする遺跡。旧石器時代は，細石刃文化期の遺物が出土している。縄文時代早期は，前葉に該当する遺構や遺物を多く発見した。既知の当該期遺跡と同様，被熱破砕礫が多量に出土した。					
48	小牧古墳群	志布志市志布志町安楽	H 27 年度 H 28 年度 終了	作業中	旧石器	—	細石刃核，細石刃，ナイフ形石器
					縄文草創期	集石遺構	黒曜石剥片，土器片，磨石，敲石，石皿
					縄文早期	集石遺構	吉田式・妙見・天道ヶ尾式・塞ノ神Ａ式・塞ノ神Ｂ式・苦浜式土器，耳栓，石鏃，磨石，異形石器
					弥生	—	弥生土器，石包丁
		起伏のある地形に立地し，縄文時代早期を中心に旧石器時代，縄文草創期も出土した複合遺跡。縄文早期の集石は検出層によって構成礫の大きさに差が見られる。また，塞ノ神式土器の壺形土器や，耳栓，異形石器，円盤状石器等が出土している。古墳群として遺跡登録されているが，これまでの調査では痕跡を含め古墳は確認されていない。					
49	安良	志布志市志布志町安楽	H 28 年度 H 29 年度 調査中	作業中	縄文早・後期		納曽式・西平式土器
					弥生中期		山ノ口式・須玖式土器
					古墳時代	溝状遺構	笹貫式土器，須恵器
					古代		土師器，須恵器
					中世	掘立柱建物跡，土坑，ピット他	青白磁，滑石製石鍋，土師皿
		これまでのところ，古墳時代後半期と中世の複合遺跡であることが判明。調査区内における両時期の集落構造把握等に向けて調査中である。さらに古い時期の包含層も確認されている。					
50	見帰	志布志市志布志町志布志 台地上 標高約 70 m	H 25 年度 H 28 年度 終了 ※ H 25 年度は埋文センター調査	作業中	旧石器	—	細石刃，ナイフ形石器，ハンマーストーン
					縄文早期	土坑	押型文・石坂式・下剥峯式土器，石鏃，磨石，石皿
					縄文前・中期	落とし穴，土坑	—
					縄文後・晩期	溝状遺構	磨消縄文・丸尾式・西平式・中岳Ⅱ式土器，磨石，敲石
		縄文時代を中心とした遺跡である。旧石器時代は細石刃並びにナイフ形石器文化期に比定される。縄文時代早期は，土器に比べ石器の出土が極めて少ない。前～中期の落とし穴は２基で，底部に杭跡は確認できなかったが全体形状から想定した。					

定塚遺跡

全景

出土遺物

吉田式土器出土状況

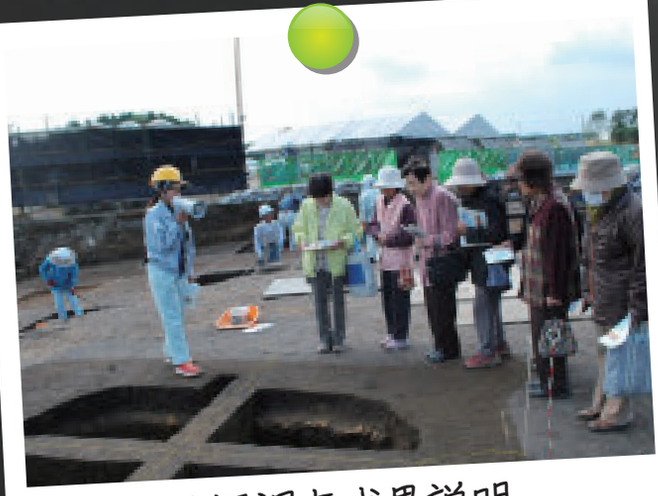
復元された吉田式土器

竪穴住居状遺構 18 調査風景

天神段遺跡

弥生～近世編
【土坑墓内出土全遺物】

作業風景

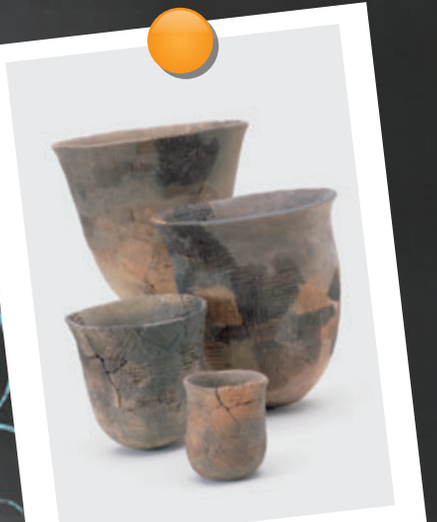


発掘調査成果説明

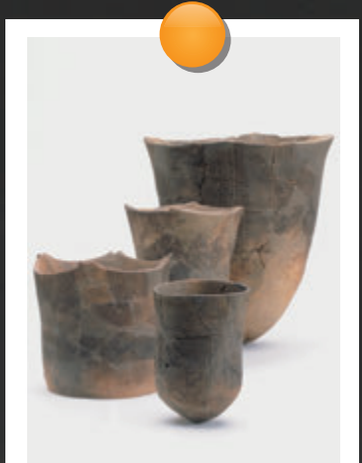
実測風景

縄文時代前期～晩期編
【石剣】

遠景



縄文時代前期～晩期編
【曽畑式土器】



縄文時代前期～晩期編
【深浦式土器】

野方前段遺跡

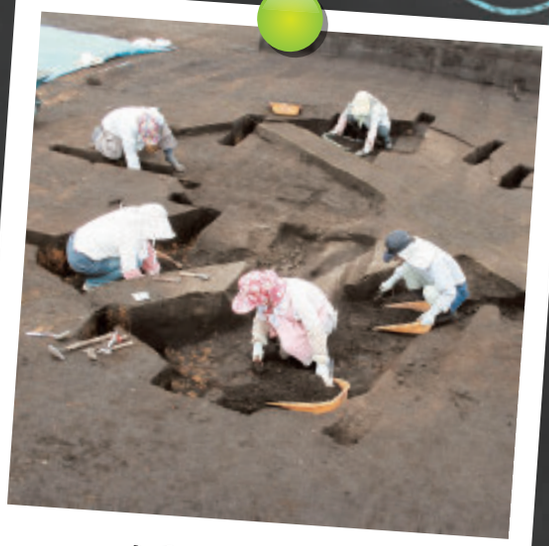
A 地点 _ 縄文時代早期の土器

B 地点 _ 縄文時代早期出土土器

B 地点 _ 作業風景

十三塚遺跡

遠景



調査状況１

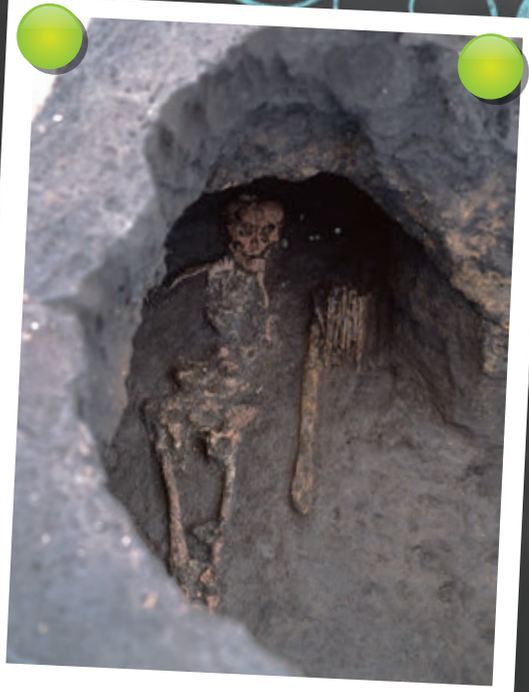
調査状況２

弥生時代の出土遺物

調査状況３

立小野堀遺跡

遠景



90号地下式横穴墓

遺跡見学

調査風景（遺構実測）

調査風景（掘り下げ）

古墳時代の出土遺物

田原迫ノ上遺跡

縄文早期の土器
【石皿・磨・敲石】

遺構掘り下げ状況

遠景

竪穴住居跡７号出土主要土器

Ⅳ類瘤状突起集合

大型砥石

町田堀遺跡

60号地下式横穴墓

埋設土器集合

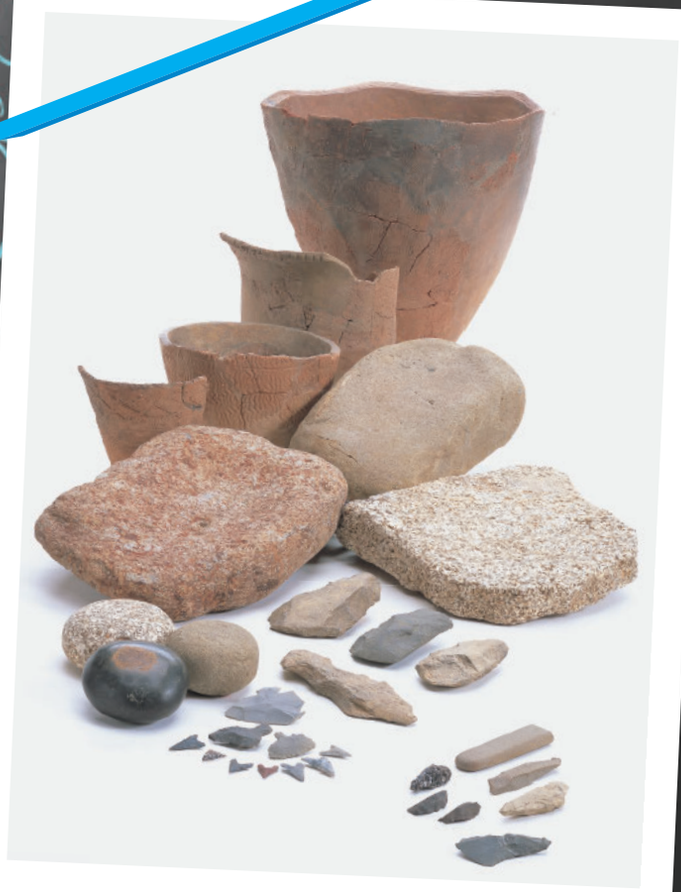
2号竪穴住居出土石刀

異形鉄器集合

遠景

石斧集合

永吉天神段遺跡



旧石器・縄文早期の出土遺物

遠景

（南側上空から、シラス採取場の北側台地）

遺跡調査範囲

縄文時代晩期の組織痕のある鉢

荒園遺跡

集石１号（現地説明会資料）

噴砂状況断面剥ぎ取り

竪穴住居跡１号出土遺物

平良上C遺跡

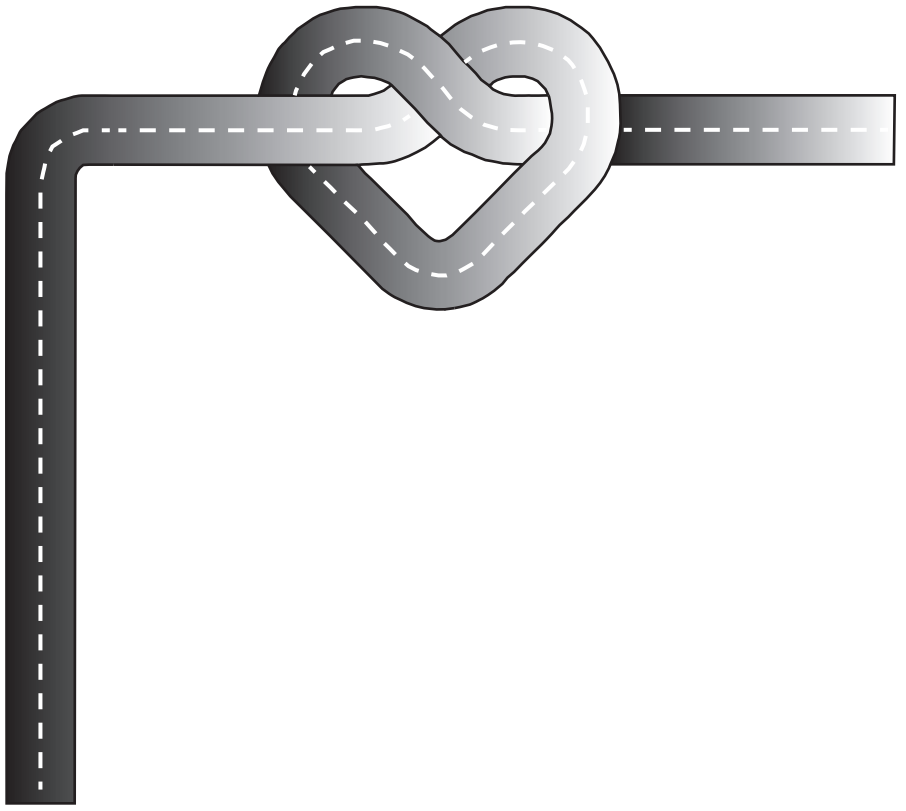
遠景

作業風景

縄文時代の土器

遺物出土状況

現地指導



かごしま
遺跡フォーラム 2018
大隅半島の考古学
―道路の下のものがたり―
資料集

発行：2018（平成 30）年 10 月 13 日
編集：鹿児島県立埋蔵文化財センター
南の縄文調査室

Kagoshima